

# 同窓会報

No.27



国立大学法人  
豊橋技術科学大学  
TOYOHASHI  
UNIVERSITY OF TECHNOLOGY



第25回吹奏楽団定例演奏会



ABUアジア・太平洋ロボットコンテスト3位入賞

2010



## 本学の「新たなる挑戦の時代」に向けて



豊橋技術科学大学 学長 榎 佳之

同窓生の皆様、昨年の金融危機に端を発する世界経済の停滞は皆様方にも様々な形で影響を及ぼし、それを乗り越えるべくそれぞれのお立場で努力されていることと思います。そんな重苦しい状況の中ですが、政権も変わり何か新しい展開が始まりそうな気配、しかし同時に軸足の定まらない政権の不安定さを感じておられる方も少なくないと思います。

さて、本学は高度な実践的、指導的技術者を育成することを使命とし、時代と共に進化し33年がたちました。30周年記念誌をみますと10年ごとを区切りとして「成長の時代」、「飛躍の時代」、「激動と変革の時代」と名付けられた時代を経て今日に至っております。しかし、近年、大学を取り巻く社会環境は大きく変化し、今後の進むべき方向を再度検討すべき時期にきています。すべての国立大学は来年4月から第2期中期目標・中期計画期間に入りますが、本学ではそれに合わせて次の10年、20年先を見据えた将来計画の策定を行いました。私はこれを本学の「新たなる挑戦の時代」と位置づけたいと思っています。ここではその取り組みの一端を紹介いたします。

新しい将来計画の中核は**教育・研究組織の再編**です。地球温暖化やエネルギー問題、食糧問題などが顕在化する中で今後は持続的発展型社会の構

築に求められ、そのためには新たな技術開発、技術者養成が求められます。本学ではこれまでの「我が国の基幹産業を支える先端技術」に加え「新たな持続的発展社会の構築に対応する先導技術」を新たな柱とし掲げ、図1にあるように組織として新時代への方向性を明確に打ち出しました。

教育面では近年は技術の進歩・高度化と共に、専門性が細分化される傾向が強くなっておりますが、一方で環境・エネルギー問題など複合的課題に対応できる能力の育成が求められています。そこで幅広い視野の醸成を目指して、8課程に細分化されていた課程を5課程に統合するとともに、新たに総合教育院を設置し、生命科学、環境科学を必修化するなど、幅広い視点から物事をみる新しい教育プログラムを強化しました。また次代の産業を主導する「よい意味でのエリート技術者」を養成するために新たに企業と協働で人材養成を行う「テラーメード・バトンゾーン教育プログラム」(図2を参照)を来年度から大学院に導入します。

研究面では本学はセンシング、ナノフォトニクス、IT農業など特色ある先端研究領域の開拓に挑戦し、グローバルCOEプログラムに採用されていますが、今後はそれらを核とした世界的な研究拠点を構築すべく、その第1弾として本学が世界に誇るセンサーチップ技術と脳科学など「先端知」

が融合する「エレクトロニクス先端融合研究所」をG-COEの発展形として開設する予定です。この新しい領域を拓く若い人材をテニュアトラック教員として獲得する資金をJSTから獲得し、更に本年度の補正予算で1500平方メートルの新しい研究棟の建設が認められH22年度には完成予定です。また、学生諸君の活躍で今年度もNHKロボコンで優勝し、本学は「ロボコンの豊橋技科大」として全国に知られるようになりましたが、研究面でも「ロボットと共生するキャンパス」をキャッチフレーズにロボット関連の研究センターが計画されています。

本学の社会的使命が高専と連携して日本の産業を担う高度な創造的技術者を養成することは今後も大きく変わることないと思いますが、世の中に本学の目指すものをよりよく明確に伝えるために新たに本学のキャッチコピー及びコミュニケーションマークの制定を行いました。まず、本学が目指す基本精神を端的に表す言葉として「**技術を究め、技術を創る**」を使うこととしました。また、従来の学章に加えて、下の図3にあるような**技術と人が重って「T」を形成する**新しいコミュニケーションマークも制定しました。皆様の印象はいかがでしょう。

経済、政治ともに不安定な時代にありますが、皆様の母校は今、新たな取り組みをしようとしております。今後とも同窓生の皆様のご理解とご支援をいただきたくお願い申し上げます、私からの挨拶とさせていただきます。

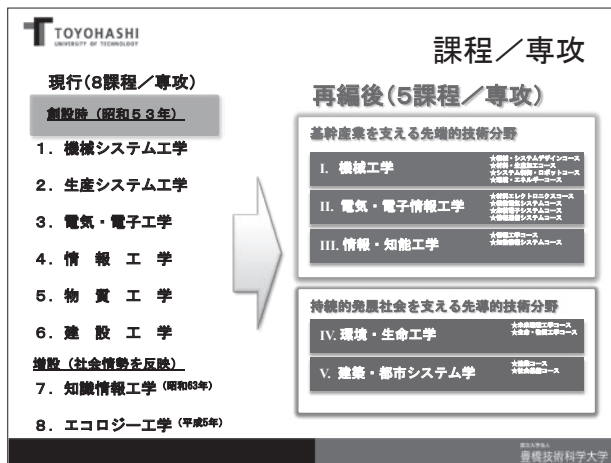


図1

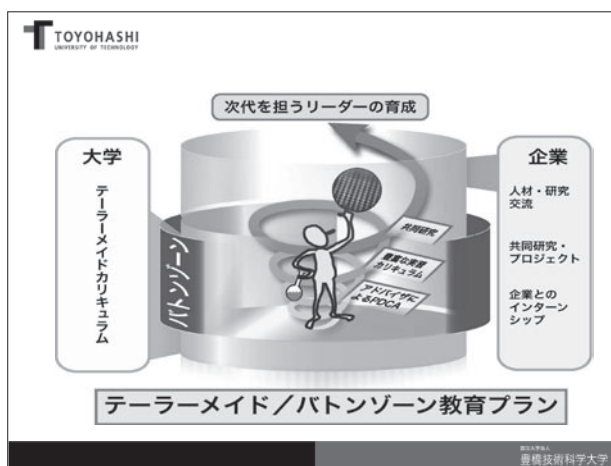


図2



図3

# 第一工学系

## 機械システム(旧エネルギー)工学系より

### 学内近況報告

機械システム工学系 鈴木 孝 司

本学をご卒業された皆様におかれましては、ご健勝のことと存じます。まず、機械システム工学系に関する最近の職員の異動についてお知らせします。2009年3月に工学教育国際協力研究センター (ICCEED) 教授の本間寛臣先生がご定年退職されました。機器設計学分野・助教のグナワン・フェルギアント・エフェンデ先生も退職されました。現在、Western Australian Universityにてご活躍です。先生方には本学の研究・教育のために長い間ご尽力いただき、感謝しております。一方、2009年4月には足立忠晴先生が機器設計学分野・教授として東京工業大学より赴任され、樋口理宏先生が同分野・助教として大分工業高等専門学校より赴任されました。また、4月に竹市嘉紀先生が准教授に昇進、5月には鈴木新一先生が教授に昇進されました。

学生の就職状況につきましては、世界的な金融不安の影響による就職難が心配されておりましたが、こと機械システム工学課程・専攻の学生（2010年3月卒業・修了予定）につきましては、7月までにほぼ全員が優良企業から内定をいただきました。これもひとえに卒業生の方々のご活躍が社会から高く評価されているお陰です。学生達に代わって深く感謝申し上げます。また、本年も多く卒業生の方々を採用活動等で大学を訪問して下さい、まことにありがとうございました。在校生にとっては諸先輩方の生の声を聞くことができる貴重な機会となっておりますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

ここで本学の再編についてお知らせしておきます。既に新聞報道などでご存じの方も多いと存じますが、本学では2010年4月に再編を予定しております。現在の8つの課程・専攻は5つに（学年進行による）、機械システム工学系は生産システム工学系などと融合し、新たに「機械工学系」（学部115名/年、修士104名/年）として生まれ変わります。併せて長年親しまれた3学期制から2学期制に移行します。再編後の各系の同窓

会の取り扱いにつきましては現在協議中ですので、あらためてお知らせいたします。

末筆ながら、卒業生の皆様におかれましてはそれぞれの職場でお元気に活躍されることをお祈り申し上げ、近況報告とさせていただきます。

#### [第一分野：熱・流体工学分野]

教 授： 日比昭, 北村健三  
准 教 授： 中川勝文, 柳田秀記, 鈴木孝司  
助 教： 光石暁彦

#### [第二分野：エネルギー変換工学分野]

教 授： 高木章二, 野田進(系長), 鈴木新一, 飯田明由  
准 教 授： 関下信正, 内山直樹  
助 教： 佐野滋則, 伊藤高啓, 名田譲

#### [第三分野：機器設計学分野]

教 授： 上村正雄, 河村庄造(未来ビークルリサーチセンター), 足立忠晴  
准 教 授： 竹市嘉紀, 感本広文  
助 教： 樋口理宏

[技術専門職員] 徳増学, 神谷昌宏

[事務] 永田千尋, 野亦真理子

## 第一工学系同窓会事務局より

### H20年度収支報告

収入の部	
前年度繰越金	¥5,374,888
終身会費分配金	¥430,000
終身会費振込み(1名)	¥10,000
利息(普通預金利子)	¥4,376
収入合計	¥5,819,264
支出の部	
会報用封筒(2500枚)	¥44,420
会報発送費	¥90,080
アルバイト代	¥30,000
支出合計	¥164,500
次年度への繰越金	¥5,654,764

## 平成20年度 内定企業

修 士	
ヤマザキマザック(株)	三菱重工業(株)
マレーシアで就職(プロトン)	井関農機(株)
ミネベア(株)	キャノン(株)
大日本スクリーン製造(株)	(株)IMAGICA
東罐興業(株)	(株)コベルコ科研
矢崎総業(株)	ヤマハモーターエンジニアリング(株)
新日本製鉄(株)	アイシンエイダブリュ(株)
清水建設(株)	三菱自動車工業(株)
東海旅客鉄道(株)(JR東海)	(株)デンソー
TOTO(株)	大林組
トヨタ自動車(株)	NTN(株)
四国化成工業(株)	古河電気工業(株)
隆祥産業(株)	新東工業(株)
日本精工(株)	(株)森精機製作所
日本特殊陶業(株)	日立オムロンターミナルソリューションズ(株)
松下エコシステムズ(株)	カワサキプラントシステムズ(株)
三井造船(株)	日本ガイシ(株)
旭硝子(株)	トヨタテクニカルディベロプメント(株)
東海ゴム工業(株)	日立建機(株)
ヤマハ発動機(株)	ヤマハ(株)

学 部
ユニバーサル造船(株)
東海旅客鉄道(株)(JR東海)
オークマ(株)
東芝プラントシステム(株)
三井造船(株)
富士機械製造(株)
日本車輛製造(株)
KYB(株)
豊橋造船(株)
スズキ(株)
アルバック・クライオ(株)

## 退職教員より

## 「あつという間の30年間」

## 本 間 寛 臣

豊橋技術科学大学第1工学系同窓生の皆さん、元気で活躍のことと拝察します。さて、顧みますと、昭和54年4月1日に東京工業大学から本学エネルギー工学系の助教授として赴任し、平成21年3月31日に定年退職するまで、あつという間の30年間でした。その間、本学の教員として教育と研究に、また社会貢献に自身の能力に応じて仕事をしてきたかなと思う次第です。別段、研究で世の中をあつと驚かせるような成果を挙げたわけではありませんが、それなりに日本の学会や国際会議で顔を知られるようになり、学会の役員もやり、そこそこの出来栄と自画自賛しています。これも、本研究室で勉学し、特別研究、修士研究、博士研究に精進された同窓会の皆様のお陰と感謝する次第です。

さて、この機会を借りて、同窓会の皆さんに本学が置かれる状況を紹介したいと思います。

平成14年に、文部省(現文部科学省)に申請して、本学は工学教育国際協力研究センターを設置しましたが、私は機械システム工学系の教授から同センターの専任教授に配置換えになり、機械システム工学系は兼任教授となりました。同センターは開発途上国への工学分野の国際協力を全国の大学の中心となって推進する役割を担っています。故大竹先生をはじめとする、本学の国際協力活動が認められ、他大学を退けて本学にセンター設置が決定されました。因みに、本

学の国際協力活動が本格化したのは、1990年にインドネシア国で高等教育支援プロジェクトが国際協力機構(JICA)のもとで実施され、本学が主力となってこのプロジェクトを支援し出してからです。当プロジェクトは2002年まで継続し、本学は12年間支援を続けました。この間、本学から星教授(2系)、本間(1系)、大竹教授(当時8系)が長期専門家としてインドネシアに派遣されることとなりました。大竹先生は私の後任として着任されましたが、2ヵ月後に航空機事故で亡くなりました(合掌)。長期専門家のほか、延べ130名近くの本学の先生方が短期専門家として派遣され、インドネシア地方の大学工学部の質改善に尽力されました。その結果、本学はインドネシアから多くの留学生を受け入れることとなりました。このように本学教員の国際協力活動により、本学はインドネシアをはじめ、アジア諸国から多くの留学生を受け入れています。毎年平均約200名の留学生が在籍しており、学生定員の約10%にのぼり、その比率は全国の大学工学部のなかでトップクラスです。

留学生の積極的な受け入れと並行して、本学は英語だけで学位を取得できる英語特別コースを早々と設置しました。近年、日本政府は「グローバル30」という施策を打ち出し、日本の大学を国際的に魅力のある大学とするためのプログラムを走らせています。本年

度13拠点大学が選定され、英語で学部、大学院教育を行うコースが開始します。残念ながら本学はこの中に入っていません。現在、英語で教育を行う大学院のコースを設置している大学は58となりました。文部科学省はこのような英語特別コースに留学生を優先配置することにしてあります。日本政府は「グローバル30」のなかで、今後留学生の受け入れを30万人とする計画を推進しています。しかし、最近、中国も急速に留学生の受け入れを増加させており、日本にとって脅威となっ

ています。今後、日本、韓国、中国でアジアの留学生を取り合うこととなります。今後、留学生にとって如何に魅力的で大きなメリットを付与できるコースを開発できるかが、本学が日本において、また、アジアにおいて勝ち抜いていくための鍵となります。すでに、多くの大学が企業と共同で大学院のカリキュラムを開発し、実施しています。同窓生諸君も積極的に1系の教育に参画していくことが期待されます。最後に、皆さんの益々のご活躍を祈念します。

## 第一系工学系同窓会 会長からのご挨拶

宮本 真志

(トヨタ自動車(株), 1983年エネルギー工学専攻修了)

1系同窓会の皆様、如何お過ごしでしょうか。会報発刊にあたり、1系卒業生を代表して一言ご挨拶させていただきます。



この一年を振り返って見ますと、リーマンショックの煽りを受け、世界的な経済の急激な落ち込みで、製造業はじめ多くの産業が苦難な状況に陥りました。技科大のある中部地方も例外でなく、トヨタショックと呼ばれ大変厳しい一年でした。私達の年代は、社会に出てから今まで日本の経済は発展の一途であり、この様な危機に直面した経験が無いだけに、正しく晴天の霹靂ではないでしょうか。

こう言う状況下で企業は、明日/明後日の業績確保に必死に取り組んでいます。忘れてならないのは将来への布石を計画的に打つ事だと思います。夜の明けない夜はなく、必ず夜明けを迎えます。この経済の夜明けを迎えた時に活躍できる人材を今こそ育成するチャンスだと思います。

前置きが少し長くなりましたが、本年も会報を会員の皆様にお届けすることができ、大変嬉しく思います

と共に、投稿頂きました皆様それから編集等色々ご尽力頂きました皆様にお礼を申し上げます。本会報には、色々な業種で様々な立場でご活躍されている多くの卒業生から近況を投稿頂いており、自分が経験したことがない事柄を知り得る良い機会だと思えますし、また新しい視点や観点等得るものが多い事と思えます。又、現在の大学の状況を知る唯一の情報と言っても過言で無く、皆様も大変楽しみに待ち焦がれていたのではと思います。卒業以来会うことがなかった昔の仲間を久しぶりに写真で見ることで、相互の連絡が始まったり、昔の仲間の集まりが開催されるといったことにこの会報が一役を担えればと願っております。又、前述の様に、企業での人材は財産であり、将来の金の卵を送り出して頂く大学の役目は大変重要である為、この会報を機に、皆様も大学との接点を築いて頂き、フィードバック頂ければ幸いです。

最後になりましたが、日本の将来を背負って頂く学生の教育にご尽力頂いている先生方に感謝申し上げますと共に、卒業生の皆様には、学生の育成にご協力をお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。

## 卒業生の近況報告

### 休日も忙しい日々

桂 成 基

(山八歯材工業(株), 1980年3月卒業, 本間研究室)

蒲郡で暮らして22年経ちました。夏は海風で割と涼しく、冬は温暖な観光地で、住み易い所です。仕事は、界面活性剤や酸化物、金属等の有機無機材料を駆

使した毎日です。海外出張の機会もあり、北米、アジア、ヨーロッパ、中近東等に行きました。残念ながら、南半球には縁がありません。ニューヨークの国際セン

タービル、ホーチミンのクチトンネル、パリのシャンゼリゼ通りやドバイは鮮明な記憶があります。特に、パリの町並みは素敵で、ゆっくり個人で旅行したい場所の一つです。今の会社は規模の割には、遣りたいことが出来る環境にありました。チタン合金の研究では、技科大に頻繁に通い商品化に成功しました。大学も環境が整備されて、学生さんも幸せですね。



卒業後、最初に就職した会社はテレビCMの盛んな有名企業でした。就活もせず何となく決めた様に思いますが、思えば良き時代でした。VTR戦争に敗れましたが、8mmビデオを設計したことと創業者に会えたことが良い思い出です。所謂、企業戦士なるものも経験させて貰えました。

さて、現在は、サラリーマン生活も先が見え、子供達にも手が掛からなくなり、妻も相手をしてくれない年齢になりました。その為、うどん打ちを楽しんでいます。うどんは、小麦と塩と水が織りなすシンプルな芸術品です。腕前は、食べたいと言うファンがいる

ということで察してください。今年は、自家栽培の小麦を収穫しました。製粉機も手に入れ、いよいよ粉挽きをしてうどんを打てそうです。昨今農作物の安全性が叫ばれております。輸入品に対する不安もあり、国産品が注目されています。理想は無農薬の自給自足ですが、全ては不可なので、農薬に頼らず自然の力を利用した作物作りは出来ないものかと、模索を始め、まず実家にある竹林で竹酢作りを始めました。そんな時、出会った「奇跡のりんご」という書籍に勇気を貰いました。木村秋則氏の実践する、有機無機肥料を使用しない自然農法の紹介です。彼の作ったりんごは、腐らないで水分が無くなり萎んで行くだけです。そして、この上無く美味しい。自分も竹酢を中心に彼の農法を継承し、自家製小麦の手打ちうどん、自家製の菜種油や野菜。これらを中心に、何度でも食べたくなるうどん屋を立ち上げたいと密かに計画しております。

その他にも、ゴルフや多言語活動（英語以外は日常の挨拶程度です）、バイオリンも新たに始めました。バイオリンは、何時かオーケストラをバックに弾いてみたいものです。

## いつのまにか20年

山本 義久

(アイシン・エイ・ダブリュ(株), 1989年修了, 流体工学研究室)

皆さん、お元気でしょうか？

私も早いもので、入社して20年が経ち、社内でもベテランの部類に入ってしまった。入社面接で会社のある愛知県安城市を初めて訪れたとき、車窓から見える景色は辺り一面田畑ばかりで、山も遙か遠く地平線を感じられる所で、技科大にいた田舎者の私ですら、「すごいところだな」と思ったことを昨日の事のように覚えています。



さて、創立40周年を迎えた私の会社は、オートマチックトランスミッション（以下A/Tと呼びます）とナビゲーションシステム、さらには5年ほど前からハイブリッドシステム（以下HEVと呼びます）を開発、設計、製造しております。私は、入社以来、A/Tの開発、設計に携わり、油圧および制御を中心に担当しております。最初は分からないことも多く、上司や先輩に教わりながら、さらには寮に帰って勉強して一つ一つ技術や知識を身につけていく毎日でした。あのときも今も、「大学でもっと勉強しておけば良かった」と何度も後悔しました。ただ、大学や研究室での経験も活かしたことは事実で、同僚や先生方にも大変感謝しております。また、入社後、優れた上司にめぐり会えたこ

とは私にとって最大の幸運であり宝で、今の自分にどれだけ役に立っているか計り知れません。

そんな私も、5速A/Tの開発から量産、さらに数々の新製品開発や品質保証まで経験し、3年前にHEVの開発部署に異動になりました。長年の油圧技術を中心とした業務から離れ、モータやインバータといった今まで経験していない電気の分野まで担当することになりました。昨今、環境問題が叫ばれる中、HEVやEVの話題が毎日のようにテレビや新聞に登場するくらい注目され、私もその重要さを日々感じております。ただ、「温暖化防止のためのCO<sub>2</sub>削減」と言われると違和感を覚え、「今直面しているのはエネルギー問題だ」と学生時代の特別講義を思い出しながら、自分で勝手に解釈しております。いずれにせよ、日本を支えてきた自動車とその産業が大きく変わろうとしており、HEVやEVとその技術が、私や会社のみならず日本にとっても重要な時代になったと痛感しております。より優れた商品を世に送り出し、会社の諸先輩方のこれまでの努力や成果を無駄にすることのないようにがんばりたいと自分を叱咤激励する毎日です。

最後に、様々な分野でご活躍されている皆様のご健康とますますのご発展を祈り、私の近況報告とさせていただきます。



# 第二工学系

## 豊友会

—for you—

### (生産システム工学系同窓会会報)

#### 系長あいさつ

生産システム工学系 系長 清水 良明

同窓生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。お忙しい日常の合間に、ロボコン二連覇などの報道を期に、母校についての思いを時折巡らして頂いているでしょうか？

皆様にとってはビッグニュースとなるのではないのでしょうか？

いよいよ技科大が大きく動き出します。平成22年度から現在の学部8課程を5課程に再編します。我が生産システム工学系は機械システム工学系と融合して機械工学系に昇華されます。新時代のニーズに適應できる仕組みを提供できる工夫について議論を重ね、腐心の末、4コース制をとって新しいスタートを切ります。詳細はここではご報告できませんので今後の大学からの広報等を気に留めていただければ幸いです。

さて、恒例になりますが、前報以来の教員の異動を報告させていただきます。4月にはシステム創製研究室の助教



として神戸大学より阪口龍彦先生を迎えました。また、安井准教授には、未来ビークルリサーチセンターから本系にお戻り頂きました。さらに、精密加工の研究室の人事も進めております。このように、再編を前にほぼ人事の決着をつけ、オールキャストで新系へ臨める体制が整えられていることは心強い限りといえます。

統合によって生産システム工学系という名前が消えることは、寂しい限りであります。しかし、これまで皆様が培った生産システム工学系の“なにものぞか”を礎としていきたいと思えます。ものづくりの新しい中心的存在を新系で生み出し、その学問領域においてトップランナーであり続けられるための努力はもち続ける所存であります。是非励ましとともに我々の今後を見守って下さるようお願いいたします。

最後になりましたが皆皆様のご健勝とご活躍を祈念しております。

#### 学内近況報告

材料機能制御研究室 戸高 義一

同窓生の皆様には、お変わりなくご健勝にて各職場でご活躍のことと存じます。

学生活動の近況としては、NHK大学ロボコン2009～ABUアジア・太平洋ロボコン代表選考会～(6月7日東京・国立オリンピック記念青少年総合センター大体育室で開催)にて、本学ロボコン同好会(チーム名:とよはし☆ロボコンズ)が2年連続6度目の優勝(全国から20校が出場)を果た



しました。日本代表として出場したABUアジア・太平洋ロボットコンテスト2009東京大会(8月22日東京・駒沢オリンピック公園総合運動場で開催)では3位に入賞し、また、「敢闘賞」、「アイデア賞」も受賞しました。決勝トーナメントでは、準々決勝でエジプトのテンス・オブ・ラマダンシティ工科大学に勝利しましたが、準決勝で香港の香港大学に惜敗しました。

また、9月9-12日静岡・小笠山総合運動公園(エコパ)で開催された全日本学生フォーミュラ大会に、本学から自動車研究部(チーム名:TUT Formula)が出場し、

総合成績11位(エントリーチーム数80)の好成績を残しました。カーボンモノコックボディの採用により実現した軽量高剛性ボディの特徴を活かし、アクセラレーション競技で1位となった他、日本自動車工業協会会長賞(完走奨励賞)を受賞しました。また、デザイン審査の上位5校のみが参加できる最終競技「デザインファイナル」にも選ばれました。

本学および本系が「ものづくり」のメッカであり続けられるよう、暖かく、また、一面では厳しい励ましをかけて下さいますよう、今後とも宜しくお願い申し上げます。

#### [材料工学講座]

教授：伊崎昌伸、梅本 実、戸田裕之  
准教授：竹中俊英、戸高義一  
講師：横山誠二、小林正和  
助教：笹野順司

#### [生産計画学講座]

教授：清水良明(系長)、寺嶋一彦(学長補佐)、章 忠  
准教授：三宅哲夫、Batres-Prieto Rafael、三好孝典  
助教：今村 孝(研究基盤センター)、野田善之、阪口龍彦

#### [加工学講座]

教授：森 謙一郎、福本昌宏(未来ピークルリサーチセンター長)、柴田隆行  
准教授：安井利明  
講師：安部洋平  
助教：川島貴弘、山田基宏  
助手：前野智美  
技術専門職員：小楠和彦、椿 正巳

#### [OSG ナノマイクロ加工学講座]

柴田隆行(兼任教授)、村上良彦(准教授)、  
野村光由(助教)、堀内 宰(客員教授)、  
榎田正美(客員教授)

事務室：小坂和子、波木井真美子

(平成21年10月現在)

## 【海外研修報告】

生産システム工学系 講師 小林 正和

2008年7月から約1年間、私は若手研究者育成プログラムで海外研修することを許され、デンマークのRisø研究所に滞在しました。デンマークと言えば、ヴァイキング、北欧の国です。人口は約550万人、本土(グリーンランドとフェロー諸島を除く)は九州地方より少し大きいぐらいの小さな国です。滞在したRisø研究所は、原子力関係の国立研究所として設立され、約50年の歴史を持つところです。現在はTechnical University of Denmark (DTU) と統合され、Risø DTU, National Laboratory for Sustainable Energyとなっています。その材料分野のCentre for Fundamental Research: Metal Structures in Four Dimensionに滞在し、放射光を使った多結晶材料の評価手法の修得と既に私たちの研究室で開発した手法と融合することで新しい三次元の材料評価方法で材料内部の変形状態を測定することをテーマとして研究生活を送りました。EUの放射光施設で実際に実験を行う機会も2度得られました。世界的にも優れた3D材料評価法を有するRisø研究所ですが、コペンハーゲンから西に約30kmのRoskilde市郊外のフィヨルドに面した大変のどかな場所にあります。Roskildeは11世紀～15世紀半ばまでデンマーク王国の都だった所です。Roskildeは自然がとても豊かです。1年の間も滞在していると、季節の変化が劇的なことに驚かされます。夏の頃は、朝は4時頃から夜は22時頃まで外は明るい状態でした。高負担・高福祉の社会システムを持つデンマークでは労働時間は週37時間と法律で定めら



れているそうです。デンマークの人は、朝早く仕事を始めて、午後の3時、4時に仕事を終えて、仕事の後に、趣味や家族との団欒を楽しむとのこと。研究所の人たちも、日中は仕事に集中し、夕方から家族とともに過ごしている様子でした。サマータイムが終わる頃になると、日照時間が短くなってきます。晴れが少なくなり、曇りが多く、さらには風雨の日々となり、時々雪が降り出します。クリスマスの頃までは、寒い中でも町に華やいだ雰囲気がありますが、それが終わると、天気が悪い上、日照時間が極端に短いので、人々は皆、元気がなくなってくるように思えます。最も日照時間の短い時期は、9時ごろに太陽が昇ったかと思うと15時ごろには夕暮れになってしまいます。しかしながら、雪が降った後の少ない晴れの日や、晴天で霜が降りフィヨルドが凍ると面白くなり、幻想的風景となります。現在は、フィヨルドが凍るのは天候条件が揃ったときですが、聞いたところによると、昔は凍ったフィヨルドの上でカーレースができたそうです。そのぐらい厳しい寒さだったことと、現在までの気候の変化に驚かされます。近年の気候変化の大きさを身に染みているためか、Risø研究所では環境問題に関する研究テーマが数多く取り上げられていることが印象的でした。大学とは少し違った雰囲気を持つ海外の研究所での研修は有意義だったように思います。実験結果や新しい知識以外にも得られたものは大きかったように思います。この研修の機会を与えてくださった戸田教授をはじめ豊橋技術科学大学の関係ある皆様、および受入先のRisø DTUの皆様感謝いたします。

## 着任のごあいさつ

生産システム工学系 助教 阪口 龍彦

平成21年4月1日付けで生産システム工学系の助教として着任いたしました阪口龍彦と申します。平成16年12月に大阪府立大学大学院工学研究科機械システム工学専攻を修了した後、平成17年1月より神戸大学大学院自然科学研究科（平成19年4月から自然科学系先端融合研究環に



配置換)の助教として4年間勤務しておりました。生産システムの高機能・高効率化に関する研究分野を専門とし、主に生産スケジューリングやサプライチェーンマネジメントなどの生産管理に関する研究に従事しております。愛知県は日本を代表する「ものづくり王国」ですので、更なる研究の発展を目指し、本学の発展に貢献できるよう努力していきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 研究室だより

### 製錬工学研究室の近況報告

材料工学講座 助教 笹野 順司

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。現在の製錬工学研究室は、伊崎昌伸教授、竹中俊英准教授、笹野順司助教の教員3名と、20名の学生（博士課程1名、修士課程11名、学部四年生8名）で構成されています。

当研究室では、“地球にやさしい材料と生産プロセスの開発”を目的として、ソフト溶液プロセスを利用した各種機能性薄膜の製膜、次世代太陽電池材料として期待される酸化物半導体の形成、熔融塩電解法によるチタン等の金属製錬、希土類含有酸化物膜を用いたマグネシウム合金の耐食性向上などに関する研究を行っています。その他の研究室の活動についてはホームページ (<http://seiren.pse.tut.ac.jp/>) をご覧下さい。卒業生・修了生の皆様のご健康とご活躍を祈念致し



ますとともに、今後とも研究室をお引き立ていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

### 塑性加工研究室の近況報告

加工学講座 助手 前野 智美

塑性加工研究室は森教授の下、安部講師、前野助手の3名のスタッフで研究教育にあたっており、23名の学生が在籍しております。研究内容や年間のイベントの様子は研究室ホームページ (<http://plast.pse.tut.ac.jp>) にて随時更新しておりますので、のぞいて頂ければと思います。今年は2台目の直接通電加熱用電源や油圧サーボプレスなど設備がこれまでに増して充実しました。また、今年は森教授が日本塑性加工学会の最高賞である会

田技術賞とイギリス機械学会A M Strickland論文賞を受賞されました。また、安部講師・前野助手が塑性加工学会優秀論文奨励賞、3月に修士修了



した藤井君が自動車技術会  
大学院研究奨励賞と日本塑  
性加工学会学生奨励賞を受  
賞するなどスタッフ、学生  
とも非常に活発な年でした。

来年は国際学会Metal  
Forming 2010を豊橋にて開  
催致しますのでまた充実し  
た年になると思います。最  
後になりますが、豊橋に出  
張などでお近づきの時はお  
気軽にお寄りください。



## システム制御研究室の近況報告

博士2年 田崎 良 佑

卒業生の皆様には元気でご活躍のこととお慶び申し  
上げます。

現在のシステム制御研究室は、寺嶋教授、三好准教  
授、野田助教、研究員・秘書・研究生（各1名）、博士  
課程2名、修士課程20名、学部4年生7名の計35名で  
構成されています。

“ロボティクスとオートメーション”を中心に、「人  
に優しい制振制御技術の開発」、「機械と人間の共生を  
考慮したインテリジェント制御システムの構築」を目  
指して研究に取り組んでいます。最近では特に、産学連  
携プロジェクトへの取り組みも拡大しており、基礎研究  
と先端技術創出を推進しています。

研究室メンバーは、修士課程でほぼ全員が国際会議  
での発表を経験し、また、研究室見学を訪れる海外企  
業・大学の方ともしっかりと英語コミュニケーション  
がとれています。オフタイムの特徴として、研究グル  
ープ・各学年・研究室で、と何かと理由を作っては集まり、  
山・川・海に出向いて遊び、宴会を楽しみ、充実して



過ごしています。

さて、1978年に1期生を迎えて、現学部4年生が32  
期となる当研究室では、博士卒11名、修士卒156名、  
学部卒43名の同窓生を数えました。今年、10月24日  
には、第9回研究室同窓会が開催されます。原稿執筆  
現在においても多くの同窓生の方々の出席連絡を受け  
ており、とても楽しみにしております。

## 豊友会事務局から

### 平成 20 年度収支報告

#### 収支の部

前年度繰越金	4,371,820
会費（各系分配金）	590,000
普通預金利息	6,391
収支合計	4,968,211

#### 支出の部

会報等発送作業代	18,000
会報等発送代	194,705
次年度繰越金	4,755,506
支出合計	4,968,211

### 豊友会事務局

〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1  
豊橋技術科学大学 生産システム工学系内  
FAX: 0532-44-6690  
E-mail: admin-2@tut-ob.org  
URL: <http://www.tut-ob.org/>

会 長	中川 真
副 会 長	安部 洋平
会計担当	前野 智美, 戸高 義一
会報担当	山田 基宏
名簿担当	今村 孝
ホームページ担当	野田 善之

# 第三・第四工学系

## 電気・電子工学系／情報工学系より

### 電気・電子工学系／情報工学系の近況報告

#### 電気・電子工学系

須田 善行

卒業生の皆様におかれましては、お元気でご活躍のことと思います。電気・電子工学系の近況をご報告します。平成19年度に採択されたグローバルCOEプログラム「インテリジェントセンシングのフロンティア」は3年目を迎え、11月5日（木）に学術総合センター一橋記念講堂にてグローバルCOE国際シンポジウム東京2009“センシングが切り拓く先端知”を開催しました。

本年度も先生方の異動がありました。まず、平成21年3月末をもって、内田裕久先生が東北工業大学工学部知能エレクトロニクス学科教授として、8月末をもって、桶真一郎先生が津山工業高等専門学校電子制御工学科講師として、9月15日をもって、高尾英邦先生が香川大学微細構造デバイス統合研究センター准教授に、それぞれ転出されました。一方で、4月1日付けで、山口堅三先生が基礎電気・電子工学分野の助教として、高橋一浩先生が電子デバイス工学分野の助教として、それぞれ着任されました。高専派遣教員として、辻塚人先生が電子デバイス工学分野の准教授として着任されました。また、古川雄三先生が電子デバイス工学分野の准教授、岡田浩先生がインテリジェントセンシングシステムリサーチセンターの准教授として昇進されています。

平成22年度には、いよいよ学部・大学院が再編されることとなり、電気・電子工学系は情報エレクトロニクス系として新たな教育研究組織へと再編されます。また、JABEEの継続申請も予定されています。高い専門性に加え、幅広い視野を持ち、社会の変化に柔軟に対応できる技術者を養成するために、教職員一同これまで以上に精進してまいります。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

#### 情報工学系

和田 和千

同窓生の皆様方におかれましては益々ご健勝、ご活躍のこととお慶び申し上げます。情報工学系に関連する近況を報告いたします。

新しい寮の完成や事務棟・A棟間2階連絡通路の開通はもう半年近く前のこととなり、今年度はC棟の改修が行われます。教職員は居室を一時的に移動する準備をし始めており、数ヶ月後にはきれいな部屋で皆様のご訪問を迎えられるものと期待しているところです。

この1年間の先生方の異動は次の通りでした。4月から、計算機工学分野の廣津登志夫先生は法政大学情報科学部で、また情報処理工学分野の佐藤恵一先生は函館高専でお勤めになっています。一方、情報システム工学分野に永井岳大先生をお迎えしました。各先生方の一層のご活躍を皆様と一緒に祈念したいと思います。

定年をお迎えになった先生が一人おられます。開学以来、系や大学のためにご指導、ご尽力くださいました田所嘉昭先生が平成21年3月に退職なさいました。先生が毎年、参加されてきた開学記念駅伝では、昨秋、元気一杯の選手宣誓をいただき、文武両道で頑張れとの激励のお気持ちを頂戴しました。最終講義の結びの一つには、3・4系の同窓会である三志会を盛り上げてほしいとお言葉がありました。是非、同窓生の絆を大切にしていきたいものです。

6月に発表された学部・大学院の再編や、8月の総選挙結果による政権交代など、学内外の様々な変化を前に、情報工学系の教職員も常に前向きに頑張っております。いつも皆が一丸となって柔軟かつ適切に対応し、教育・研究を行ってまいります。今後ともみなさまの相変わらずのご支援をよろしくお願い致します。

## 電気・電子工学系／情報工学系教職員一覧

### ◆ 電気・電子工学系

〈基礎電気・電子工学分野〉

教 授：太田昭男，福田光雄，井上光輝  
渡邊健次郎

准 教 授：服部和雄，中村雄一，  
Alexander Baryshev，Lim Pang Boey

助 教：金 周映<sup>\*1</sup>，稲田亮史，山口堅三

〈電気システム工学分野〉

教 授：長尾雅行，櫻井庸司，滝川浩史

准 教 授：須田善行

講 師：村上義信

助 教：千坂光陽

技術専門職員：日比美彦

〈電子デバイス工学分野〉

教 授：石田 誠，若原昭浩，澤田和明

准 教 授：朴 康司，岡田 浩<sup>\*2</sup>，古川雄三，  
辻 琢人，原田八十雄

助 教：河野剛士，高橋一浩

技術専門職員：足木光昭

### ◆ 情報工学系

〈計算機工学分野〉

教 授：中川聖一，藤戸敏弘

准 教 授：秋葉友良<sup>\*3</sup>

講 師：小林良太郎，杉原 真

助 教：山本一公，藤原洋志

技術専門職員：片岡嘉孝

〈情報処理工学分野〉

教 授：青野雅樹，三浦 純，栗山 繁

准 教 授：福村直博

講 師：菅谷保之

助 教：関 洋平，向井智彦

助 手：佐竹純二

〈情報システム工学分野〉

教 授：大平 孝，梅村恭司，中内茂樹

准 教 授：上原秀幸<sup>\*4</sup>，和田和千

助 教：阿部洋丈，永井岳大

助 手：ウリン トヤ

技術専門職員：宮脇治雄

### ◆ 事 務 員

斉藤陽子，丸山利美，中根ゆかり，関美知代

### ◆ グローバルCOE事務員

橋詰恒雄，杉浦寛子，小林裕子

※1 研究基盤センター

※2 インテリジェントセンシングシステムリサーチセンター

※3 メディア科学リサーチセンター

※4 未来ビークルリサーチセンター

### ◆ 同窓会役員

〈電気・電子工学系〉

村上義信，稲田亮史，河野剛士

E-mail: admin\_3@tut-ob.org

〈情報工学系〉

山本一公，向井智彦

E-mail: admin\_4@tut-ob.org

平成 20 年度

### 電気・電子工学系／情報工学系同窓会会計報告

平成 20 年度決算

<b>■収入の部</b>	
平成 19 年度繰越金	8,449,091
平成 20 年度終身会費入金分	1,030,000
預金利息	10,891
収入合計	9,489,982
<b>■支出の部</b>	
平成 20 年度会報発送費	245,920
平成 20 年度会報発送作業費	131,462
国際学会発表奨励金	400,000
小計	777,382
次年度繰越金	8,712,600
支出合計	9,489,982

## ～退職教員より～

元情報工学系 教授 田所 嘉昭

3月に入って本格的に教員室の整理を始めました。廃棄物を台車に乗せて、30回以上資源置き場に通いました。そして3月末に日立の両親と仙台の恩師の墓参りをして、31日名古屋である財団の理事会に出席して私の大学での勤務は終了しました。

最終講義の最後に、「技科大での31年間の充実した教員生活に感謝」と結びましたが、多くの学生、教職員の皆様に大変お世話になったことを改めてお礼申し上げます。そのお礼のつもりで4月から「信号処理研究室のあゆみ」の作成を始め、6月初めに約400枚のCD（A4で約100ページ）に焼いてお世話になった関係者に配布しました。また、最終講義で今後の生活について、「昼読夕耕」（昼間は読書をして夕方に畑をやる）、登山をしたいと述べました。6月ではほぼ残務整理が終了しましたので、7月から残された研究テーマを楽しみながら始めると共に、昔読んだ日本文学全集と世界文学全集を適当に読み出しました。夕方になって1時間から2時間畑仕事をしています。約60坪の畑ですが、最初は荒地を耕すのに体力を必要として良い運動にもなりました。それでも畑らしくなってくると嬉しいものです。1年目にしては成績が良く、大根、人参、キュウリ、トマト、トウモロコシ、ピーマン、ナス、カボチャ、オクラ、ゴーヤと収穫があり、近所の方や知人にも配ることができました。大好きなトウモロコシは2週間朝食になりました。今はサツマイモが元気に育っています。これから白菜、キャベ

ツ、ジャガイモの苗を植えつけるつもりです。

登山については、あこがれの北海道の山に7月29日から8月2日と4泊5日で大雪山系の縦走をしてきました。先日事故があったトムラウシ山、旭岳にも登りました。天候にもめぐまれ、山の空気、景色、高山植物を楽しんできました。9月からは頼まれた講義が始まり週に1回大学に行くことになります。また、大学で新たに採択された2件の教育、研究プロジェクトの応援を頼まれ会議があるときに大学に行っています。4月から自由人と思っていきましたが結構忙しい日々を送っている感じです。北アルプスの基地と孫のお守り用にとあって借りた松本の下宿にもあまり行けないしておりますが、そのうちに何とか初期の目的を達成しようと、登山口までの道を探したりしています。

以上が定年間際からの近況です。豊橋におりますので大学を尋ねがてらには是非我が家にもお立ち寄りください。皆様の健康と発展を祈っております。



# 研究室だより

## クリーンエネルギー変換研究室

電気・電子工学専攻 修士2年

### 仲 昇

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましては、それぞれの職場で大いに活躍されていることと存じます。

現在、クリーンエネルギー変換研究室は、櫻井庸司教授、千坂光陽助教の下、修士8名、学部4名の計14名で日々研究に励んでおります。本研究室は、2007年4月にスタートしました。私が本研究室1期生であり、2年経った今、活気溢れる研究室になってきました。

資源エネルギー・地球環境問題の一体的解決と、来るべきユビキタスネットワーク・クリーンエネルギー社会における分散型クリーン電源に対する社会的要請に応えるためには、環境負荷が小さく高エネルギー密度で長寿命な二次電池や高効率な燃料電池が必須であり、その根幹を成す新しい材料・プロセス・評価技術の研究開発が今後益々重要になります。

本研究室では、電気自動車・燃料電池自動車等のクリーンビークルや自然エネルギー利用分野での利用も見据え、これら電気化学エネルギー変換デバイスの高性能化・低コスト化・高信頼化に資する研究開発を幅広く展開しています。とりわけ以下の4つの研究テーマに分かれて研究に取り組んでいます。

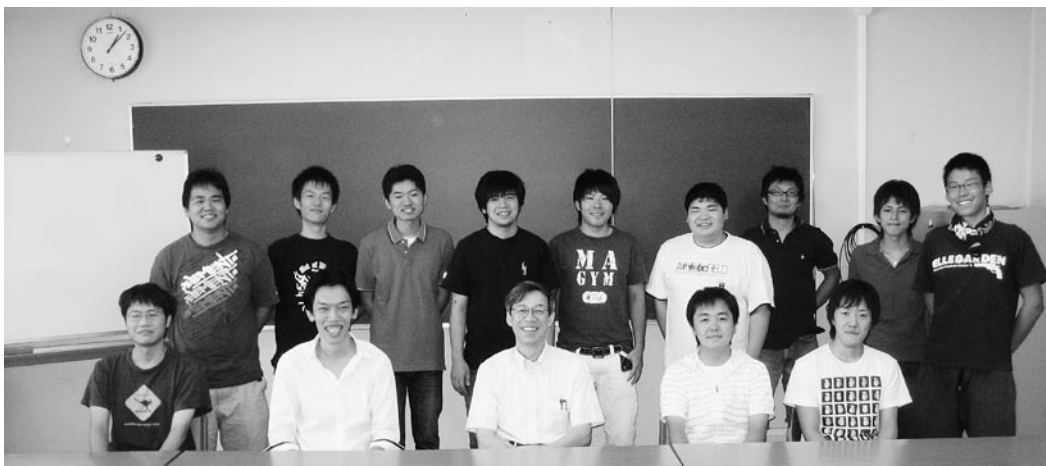
- (1) 次世代型リチウムイオン電池用環境調和電極材料に関する研究
- (2) 多価イオン電池の基礎研究
- (3) 固体高分子形燃料電池用低コスト触媒の研究
- (4) 電池に関する新規計測技術の研究

まだ、新しい研究室ですので、実験環境を整えることにも尽力しているのが現状ですが、自分たちの研究成果も発表できるように研究に取り組んでいるところです。

研究室の行事としましては、春には新4年生歓迎会、夏にはバーベキュー、冬には忘年会そして不定期の飲み会などを行っています。研究室内の親睦を深めることを目的としていますので、今後も行事が増えることを願っています。

ご多忙とは存じますが、豊橋方面へ来られる機会がございましたら、お気軽に研究室へお立ち寄りください。研究室一同、心から歓迎いたします。先輩方の大学在学中、卒業・修了後のお話や現在の職場の経験談などの貴重なお話を頂ければ幸いです。

最後になりましたが、諸先輩方のさらなるご活躍とご健康を心よりお祈りしております。





## 集積回路・センサシステム研究室

電子・情報工学専攻 博士1年

河野 顕輝

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様につきましては、大学での経験を糧に大いに活躍のことと存じます。

現在、集積回路・センサシステム研究室 (ICG) では、石田 誠 教授、澤田 和明 教授をはじめとする多くのスタッフの方々とともに、博士8人、修士26人、学部16人が在籍しています。

本研究室では、集積回路とセンサやMEMS構造を融合するための研究をしています。研究内容は、VLSI結晶成長法による神経電位センサや光・pH融合イメージセンサ、農業・畜産用マルチモーダルセンサ、赤外線イメージセンサなどがあります。先生に限らず、学生も国内外の様々な会議に活発に参加しています。

最近、固体機能デバイス施設が増設され、設備がますます充実してまいりました。それに伴い、今年

度から4人のスタッフが新たに加わりました。これにより研究室のさらなる発展が期待されます。

また、2009年9月に、20年近くICGを支えてくださった高尾 英邦 准教授が香川大学に移られました。写真は9月2日に行った先生の送別会の様子です。先生には研究についてご指導頂き、大変お世話になりました。今後のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

現在、研究室のWeb Site (<http://www.dev.eee.tut.ac.jp/ishidalab/>) では、研究室の紹介やメンバーについての情報を公開しています。ぜひ一度ご覧ください。卒業生・修了生の皆様におかれましては、豊橋にお越しの際は私どもの研究室にお気軽にお立ち寄りください。研究室一同、心から歓迎致します。先輩方の更なるご活躍を心よりお祈りしております。



高尾英邦准教授送別会の様子 (2009年9月2日)

## 画像工学研究室

電子・情報工学専攻 博士2年

大 鳥 浩 史

卒業生、修了生の皆様方におかれましては、各々の職場で大いに活躍のことと存じます。本誌の場をお借りして画像工学研究室の近況について報告させていただきます。

本研究室は金子豊久名誉教授によって1994年に立ち上げられ、現在は栗山繁教授を中心に向井智彦助教、博士課程1名、修士課程7名、学部生4名の計14名が在籍しています。

本研究室は、モーショングループと情報埋め込みグループに大別され、モーショングループではモーシヨンデータの検索・解析・生成・計測や群衆行動の生成を、情報埋め込みグループではCG技術を利用した雑音耐性のある情報埋め込みの研究やその応用について研究しています。昨年度は、高専・両技科大間教員交流制度において函館高専から佐藤恵一先生を研究室に迎え、空手組み手の解析・訓練のシステムを開発し、その後も共同研究を進めています。また今後は、映像・シミュレーション技術を基盤とした異分野融

合的なプロジェクトも予定されています。

主だった研究成果として、本研究室で開発したMoCaToon（人体動作データをアニメ調に変換する技術）がTVアニメ「のだめカンタービレ」の指揮のシーンで利用されました。また情報埋め込みについても、テクスチャ画像、パターン図柄、図形輪郭線に関する技術について3件の特許を出願しています。詳しくは、研究室ホームページ (<http://www.val.ics.tut.ac.jp/>)にも公開しておりますので、ご覧頂けたら幸いです。

学生の語学力の向上として英会話の学習に毎週取り組むようになり、積極的に学外発表に参加することで情報収集や研究意欲を高めています。昨年度は、電子情報通信学会東海支部から学生研究奨励賞や卒業研究発表会のポスター発表部門での優秀賞を授与される等の実績を残しています。

研究室の行事として、年度初めの新入生歓迎会から始まり、夏休みには球技大会および他研究室と合同で親睦を深めるためのバーベキューやボウリング

大会を実施しています。年末には忘年会、年度末には1泊2日で追い出しコンパ旅行を企画しています。載せている集合写真は昨年度の追い出しコンパでスキー旅行に行った時の写真です。

豊橋の近くに来られた時には、本研究室にお気軽にお立ち寄りください。先輩方の来校を一同、心よりお待ちしております。先輩方の更なるご活躍を心よりお祈りしております。



## 無線ネットワーク研究室 (前 情報交換研究室)

情報工学専攻 修士1年

渡 邊 靖 士

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様それぞれの職場において大いにご活躍されていることと存じます。

本研究室は、2006年度末に横山光雄名誉教授がご退官されるまで「情報交換研究室」という名前で研究活動を行っておりました。2007年3月にホテル日航豊橋で行われた横山先生の退官記念パーティには、全国からたくさんのOB/OGのみなさまにお集まり頂き、大変盛大なパーティとなりました。この場をお借りしてあらためて御礼申し上げます。横山先生は現在、埼玉のご自宅でお元気に悠々自適な日々をお過ごしになられていると伺っております。また、鄭吉秀さん、ランガさんは博士の学位を取得され、それぞれATR波動工学研究所、産業技術総合研究所に就職し活躍されています。

現在、無線ネットワーク研究室は、大平孝教授、上原秀幸准教授、ウリントヤ助手、宮脇治雄技術職員のもと、博士2名(生え抜きの日本人学生)、修士12名(カンボジア留学生1名含む)、学部7名の総勢25名の大所帯となっております。研究活動に関しては、エスパグループと無線ネットワークグループの2つに分かれて推進しております。エスパグループでは、高性能発振回路、ESPAR (Electronically Steerable Parasitic Array Radiator) アンテナ、電波のゆらぎを利用した秘密鍵共有システム、周波数の有効利用を目指したMACプロトコルなどを研究しております。無線ネットワークグループでは、アドホックネットワークに関する研究を行っており、ITS (高度道路交通システム)、センサネット

ワークなどを研究しております。卒業研究の最優秀発表賞や電子情報通信学会の学生奨励賞を受賞するなど、先輩方の業績に負けぬよう現役生も頑張っております。研究室メンバーや研究内容、研究成果については、ホームページ (<http://www.comm.ics.tut.ac.jp>) にて公開しておりますので、お時間があればぜひご覧下さい。

研究以外でも先輩方が築かれた良き伝統を受け継ぎ、様々な研究室イベントを行っております。今年度の研究室旅行は、岐阜県の下呂・高山に行きました。温泉めぐりや高山市内の散策をし、心身ともにリフレッシュしました(写真)。また、恒例のボウリング大会、他研究室とのソフトボール大会などのスポーツイベントも行い、親睦を深めております。

卒業生・修了生の皆様におかれましては大変お忙しいこととは存じますが、豊橋方面へ来られることがございましたら、お気軽に研究室にお立ち寄り下さい。研究室一同、心よりお待ち申し上げます。先輩方の在学中や卒業、修了後の貴重なお話をお聞かせいただければ幸いです。先輩方の今後のさらなるご活躍とご健康をお祈りしております。



## 3・4系同窓会国際学会発表奨励金

平成17年度より、系内同窓会活動の活性化および大学への貢献事業として、国際学会にて研究成果発表を行う3・4系修士学生への奨励金助成（10万円）を行なっております。平成20年度ならびに21年度前期について、以下の5名（3系4名，4系1名）に助成を行いましたので、ご報告させていただきます。（平成21年度後期分につきましては現在公募中）

### 平成20年度3・4系同窓会国際学会発表奨励金採択者

所属	学年	所属研究室	氏名	行き先
電気・電子	修士1年	長尾・村上研究室	奥墨 俊介	カナダ
電気・電子	修士1年	長尾・村上研究室	七尾 健治	カナダ
電気・電子	修士1年	福田研究室	山本 竜太	チェコ
情報	修士1年	中内研	今住 優吾	アメリカ

### 平成21年度3・4系同窓会国際学会発表奨励金採択者（前期）

所属	学年	所属研究室	氏名	行き先
電気・電子	修士2年	長尾・村上研究室	川野 正人	中国

## 国際会議参加報告

電子・電子工学専攻 修士課程2年 川野 正人

この度は、国際学会発表奨励金に採択して頂きありがとうございました。私は2009年7月19～23日に中国のハルピンで行われたInternational Conference on Properties and Applications of Dielectric Materials (ICPADM 2009)において「Treeing Breakdown Phenomena in MgO/LDPE Nanocomposite Material」という題目で、高分子絶縁材料の交流トリーイング特性に関する報告をポスター発表にて行いました。発表内容に関して興味を持っていただいた研究者と議論する機会にも恵まれ、今後の進展に関する貴重な助言も得られました。また、自身の英語力の無さを痛感し、自分を鍛えなおすきっかけを与えていただきました。このような有意義な機会を与えて頂いた、3・4系同窓会国際学会発表奨励金のご支援にお礼申し上げます。

# 第五工学系

## 物質工学系より

### 学内近況報告

物質工学系 系長 竹 市 力

同窓生の皆様にはますますご健勝にてご活躍のことと存じます。平素は本学および物質工学系（5系）の教育・研究活動に格別のご配慮・ご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。私は系長として三年目を迎えていますが、益々忙しくなる状況です。大学の変革期にあたり、重責に身が引き締まる思いで5系の発展のため精励恪勤を心がけて取り組んでいます。



昨年度の会報でもご連絡しましたが、前執行部時代より着々と準備が進められてきました学内再編がいよいよ2010年4月に行われます。再編に伴い、現5系（物質工学系）のほとんどの教員は新IV系（環境・生命工学系）に配置され、一部の教員は新II系（電気・電子情報工学系）や研究基盤センター、そして再編に伴い新たに設置される総合教育院に配置されるという構想（案）になっています。

また再編に伴い、建学以来続いてきた3学期制から2学期制に移行するとともに、講義も1時限が75分から90分になります。2学期制の実施に伴い、カリキュラム編成はなかなか大変ですが、大学の国際化や各種学会開催との整合性のためには止むを得ない措置かと思われれます。

5系が平成17年度に日本技術者教育認定機構（JABEE）の審査を受け、社会の要求水準を満たす技術者教育を実施していると認定されて以来、不断の学部教育の改善を行い、今日までに学部教育システムの大きな改革が達成されました。こうした教育改革の大きな波は、現在は大学院の博士前・後期課程にまで押し寄せています。これまで大学院修士課程物質工学専攻には外国人留学生を受け入れて英語のみで教育するという英語特別コースが設置されていました。この実績に基づき、来年度からは博士後期課程（従来の博士課程）にも

英語コースを設置することが決まっています。

また、再編に伴い、学部と大学院修士課程の定員も変更することもまっています。本学はこれまで学部から修士課程への全員の進学が前提となっていて、学部と修士の定員はほとんど同じでした。このため、学部卒業時点で就職を希望する学生も少なからずいる昨今は修士課程の定員確保に努力が必要でした。そこで、再編後には学部学生の定員が修士課程の定員より少し増え、より実態に沿った定員配分になります。

ここで、5系関連の人事異動をご報告します。2009年5月1日付けで大串達夫先生が教授に昇任されました。再編後には、語学や社会科学だけでなく物理や化学の基礎教育を担当するために新設される総合教育院での化学担当のお仕事が主となります。ただし、新IV系も兼務され、新系の教育・研究にもご尽力いただくことになっています。

また、松本明彦先生が2009年8月1日付けで教授に昇任されました。多孔材料の吸着科学や界面の物理化学の領域でこれまでも国際的に目覚ましい活躍をされてきましたが、今後はより幅広い分野での活躍が期待されています。

2009年2月1日には武藤浩行先生が准教授に昇任され、2009年4月から高専・技科大間の教員交流制度のもと、久留米高専に一年間派遣されています。大学とは異なった高専における教育・研究活動を体験されることから、再び技科大に戻ってからは、その経験を活かして一層の活躍をされることが期待されています。武藤先生の派遣にあわせて、久留米高専・材料工学科から濱上寿一准教授が本学に派遣され、一年間、5系の教育・研究活動をしていただいています。

本学と高専との連携は、交流制度に基づく教員の人事交流だけでなく、教育・研究連携プロジェクト、高専学生の本学でのインターンシップ等のプログラムを通じて一層の強化が図られています。技科大としては、高専

との緊密な連携を保持しつつ、時代の変化に対応した新たなステージに向けて独自性を発揮していく方策を見出すことがより一層求められています。

来年度は第41回中部化学関係学協会支部連合秋季大会（中化連）が豊橋技術科学大学で開催されることが決定しました。前回の本学での開催の時は伊藤浩一教授（当時）を実行委員長として、物質工学系教員が一致団結して開催したことが思い出されます。今回は物質工学系教員のみならず、エコロジー工学系等の教員にもご協力い

ただき、盛り上げていくつもりです。

少子化による学生数の減少や財源確保の問題など、大学を取り巻く状況には厳しいものがあります。しかし、小さいながらも存在感のある大学をめざして教職員一体となってこれからも頑張っていきます。今後予想されるより大きな変革に向けて、我々はより一層の努力をしてゆく所存です。同窓生の皆様の中・長期的な視点からの変らないサポートをお願い申し上げます。

## 研究室だより

### 逆井・武藤・ 松田・濱上・河村研究室

機能材料工学専攻 博士 坂本 尚敏

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場で大いに活躍のことと存じます。現在、本研究室は逆井基次 教授、松田厚範 教授、武藤浩行 准教授、濱上寿一 准教授および河村剛 助教のご指導の下、博士5名、修士15名、学部8名、特別研究・聴講留学生4名および秘書1名の計38名で日々研究に励んでおります。武藤先生は平成21年3月に准教授に昇任され、現在は『高専教員との研究連携プロジェクト』により久留米

高専に1年間派遣されており、久留米高専より濱上先生が来られています。また、新たに名古屋工業大学より河村先生が助教として着任されました。

当研究室は、無機材料を主軸とした幅広い研究を行っています。近年の研究内容を簡単にご紹介いたします。逆井先生のご指導の下、圧子力学によるガラスやコーティング薄膜の物性評価などについて研究しています。松田先生の下では、プロトン伝導性材料の合成と伝導機構の解析、ゾル-ゲル膜の高機能化と応用について研究をしています。武藤先生の下では、超塑性材料、複合セラミックス材料、フォトニック結晶などについて研究しています。濱上先生の下ではオプティカル水素センサ、河村先生の下ではメソ孔に金属ナノ粒子を析出させたゾ



ルーゲル膜について研究を行っています。

年間行事としてのお花見(4月)や松田先生宅でのBBQ(5月)、寺沢海岸でのBBQ(7月)、研究室旅行(8月)の他に、鍋・たこ焼きパーティーやテニス大会、スノーボード旅行などを企画し、学内外で親睦を深めています。研究室内の国際色も豊かになり宗教や食文化の違いを感じることもありますが、これらも貴重な体験であり多様性の中にも個性を持った技術者の育成に繋がると思います。また、研究活動においては積極的に国内・国際学会で発表し、高い評価を受けております。研究成果やイベントの写真などは研究室のホームページ(<http://material.tutms.tut.ac.jp/~muto/>)をご覧ください。

皆様にお知らせがあります。2010年3月をもって逆井先生が退職されますので、その直前に記念行事を予定しております。卒業生、修了生の皆様には後ほど連絡を差し上げます。研究室一同、記念行事への参加を心からお待ちしております。

皆様ご多忙とは存じますが、豊橋近郊へ来られたときは研究室にどうぞお立ち寄りください。最後になりましたが、皆様の更なるご活躍を心からお祈りしております。

## 服部研究室

物質工学専攻 修士 宗 實 俊 佑

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。諸先輩方はそれぞれの職場において大いに活躍されていることと存じます。現在の服部研究室は、修士5名、学部3名で、更に仮配属の学部生が2名加わり、計10名の个性的で賑やかな研究室となっています。

当研究室のイベントは、毎年5月恒例のピペットマン会から始まり、8月には大学院生参加の分析化学中部夏季セミナー、11月は学部生参加の分析化学中部高山フォーラムがあり、12月に卒研発表、翌年の2月には



修士論文審査会があります。しかし堅苦しいイベントだけでなく、その節々には新入生歓迎会、暑気払い会、忘年会などもあります。現在の研究内容は主に3つで、半導体イオンイメージセンサーの開発、導波路型オプトードセンサーの開発、高分子電解質の分析化学への応用を行っています。昨年、服部研究室のホームページを作成しましたので、そちらもご覧頂ければ幸いです(<http://www.tutms.tut.ac.jp/~thattori/>)。

昨年から大串・佐藤研究室と同室になり、4月に花見、8月はバーベキューを一緒に行いました。今まで服部研究室には研究室旅行がありませんでしたが、大串・佐藤研究室では毎年旅行へ行っているということで、私宗實が同行しました。昔の加藤・服部研究室でも旅行があったようです。きっと楽しかったことでしょう。

諸先輩方、近くにお越しの際は是非当研究室にお立ち寄りください。研究室一同、お待ちしております。最後に、先輩方の更なる躍進とご健康を心よりお祈りしております。

## 竹市・松本・河内研究室

物質工学専攻 修士 小 原 み の り  
物質工学専攻 修士 中 野 成 樹

卒業生、修了生の皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のことと存じます。当研究室は5月末にタイより留学生を1人迎え、博士5名(内留学生3名)、修士10名(うち留学生3名)、学部生5名の計20名となりました。11月末に留学生3名が修士課程あるいは博士課程を修了し、帰国する予定ですが、12月にはまた新たに4名の留学生が修士課程(英語特別コース)の学生として加わる予定です。2006年10月には立体規則性高分子やらせん型包接錯体についてご研究されている河内岳大先生が助教として着任され、研究室の学生一同、充実した研究生活を送っています。

現在の当研究室の研究テーマを簡単にご紹介します。竹市・河内研ではポリイミドやポリベンゾオキサジンなどの芳香族高分子について、新しいモノマーやポリマーの分子設計と合成、シリカやクレイなどの無機材料とのハイブリッドによる高機能化、分子包接能を有するらせん型宿主高分子に関する研究等を行っています。一方、松本研では従来から研究されているゼオライト、メソ多孔性シリカの吸着特性化に加えて、近年注目されている多孔性有機金属錯体の合成と水素やメタンなどのエネルギー気体の吸着、光触媒作用を有する多孔体の

吸着分解に関する研究も手掛けています。吸着時の分子の細孔内拡散について、明らかにしてゆくべき動的な吸着過程についても研究しています。

研究成果は、学術雑誌への論文投稿をはじめ、高分子学会や吸着学会などに参加し、発表を行っています。日頃の先生方のご指導のおかげで、卒業研究発表会や修士論文審査会で優秀発表賞をいただいたり、中部化学関係学協会支部連合秋季大会やネットワークポリマー、ゼオライト夏の学校などの学会発表においても、優秀発表賞やポスター賞を受賞したりするメンバーもおります。

春には花見、夏にはバーベキューが恒例行事で、国や

学年の枠を超えて一同親交を深めております。これらの行事や学会参加などの活動状況は当研究室のwebページ (<http://www.tutms.tut.ac.jp/~kawauchi/>) にて公開しておりますので、是非ご覧下さい。

皆様ご多忙とは存じますが、豊橋近郊に来られる際には是非当研究室にお立ち寄りいただき、ご活躍の様子をお聞かせ下さい。良い刺激を受けたいと、研究室一同楽しみにお待ちしております。末筆ながら、同窓生の皆様が今後ますますご活躍されることを心よりお祈り申し上げます。



## — 5 系同窓会会計報告 —

仕分け作業代は、郵送料を安くするために郵便番号順に仕分ける作業を行うアルバイト代です。また、名簿管理経費が予算をオーバーしたのは、今年度より名簿上に学籍番号を入力する作業が加わったためです。これは、同総会と大学との協議で決められました。平成21年度予算案で会費収入が0円なのは、学内再編に伴って新系からと旧系から入金があることによる作業上の混乱を避けるため、一括新系扱いにすることが役員会・総会で決議されたためです。

### ■収入の部

	平成20年度予算案	平成20年度決算	平成21年度予算案
前年度繰越金	2,381,712	2,381,712	2,499,266
会費	400,000	330,000	0
預金利息	4,000	3,538	4,000
小計	404,000	333,538	4,000
収入合計	2,785,712	2,715,250	2,503,266

### ■支出の部

	平成20年度予算案	平成20年度決算	平成21年度予算案
会報郵送料	130,000	120,490	130,000
タックシール作成費	10,000	10,000	10,000
袋詰め作業代	25,000	22,070	25,000
仕分け作業代	0	8,424	0
謝礼	14,000	10,000	14,000
名簿管理経費	10,000	45,000	10,000
ホームページ作成・管理費	5,000	0	5,000
小計	194,000	215,984	194,000
次年度繰越金	2,591,712	2,499,266	2,309,266
支出合計	2,785,712	2,715,250	2,503,266



# 第六工学系

## 建設工学系より

### 学内近況報告

教授 河 邑 眞

リーマンショックによる世界経済の破綻、アフリカ系黒人オバマ氏の米国大統領就任、自民党から民主党への日本における政権の交代など世界でも日本でも大きな社会環境の変化が起きています。卒業生の皆さんにも仕事上大きな影響が直接的、間接的に及んでいることとありますが、皆さんには新しい課題に前向きに取り組んでおられることと思います。昨年度に引きつぎ学生生活委員会委員の務めとして、この近況報告を執筆します。

平成22年度には学科の再編が行われ、これまでの8学科体制から5学科体制に変わります。建設工学課程（第6系）は建築・都市システム工学課程（新5系）に変わります。機械、電気、情報、環境の分野では学科の統合が行われますが、建設工学系（教員組織）については従来の組織を中心として9系の地域経済・経営工学の分野の方が加わります。学科名からみると建築色が強まりますが、教育方針としては従来の建築・土木統合型を基礎としています。ただし、JABEE対応で建築コースと社会基盤コースの二つのプログラムが並列で用意されているため、建築コース、社会基盤（土木）コースというコース分けがより明確になってきています。現在、新カリキュラムの作成が行われています。

恒例により平成21年度の建設工学系の人事異動について紹介します。今年度は退職教員がなく、若手の方々の異動がありました。まず、建築計画の分野で学生の指導に当たっていた細田智久先生が出身校の米子高専の講師として3月に転出されました。また、河川生態学などの分野が専門の対馬孝治先生が日本大学生物環境工学科に昇任を前提として転出されました。有能な若手の転出は残念ですが、新しい環境、新しい立場で活躍されることを期待しています。一方、新任の先生として四名いらっしゃいます。建築環境がご専門の源城かほり先生が秋田県立大学から助教として4月に着任されました。また、自然環境分野を専門とする横田久里子先生が千葉科学大学から助教として9月に着任されました。さらに、建築計画を専門とする渋谷達郎先生が助手として

#### 教 員 一 覧

##### ■新任

源城かほり（2009年4月、前職は秋田県立大学・助教）  
横田久里子（2009年9月、前職は千葉科学大学・助教）  
渋谷 達郎（2009年9月、慶応大学博士後期課程3年在学）

##### ■転出

細田 智久（2009年4月、米子工業高等専門学校建築学科・専任講師）  
対馬 孝治（2009年4月、日本大学生物資源科学部生物環境工学科・助手）

##### ■高専交流人事の修了に伴う復職

柴田 良一（2009年4月、岐阜工業高等専門学校建築学科准教授へ復職）  
中澤 祥二（2009年4月、豊橋技術科学大学建設工学系准教授へ復職）

##### ■現職（2009年9月現在）

##### 〔構造分野〕

教 授：加藤史郎、河邑 眞、山田聖志（系長）、三浦均也  
准 教 授：中澤祥二、真田靖士  
助 教：松井智哉、細野康代  
技術専門職員：金田隆文

##### 〔環境分野〕

教 授：松本 博、青木伸一、井上隆信（系長補佐）  
准 教 授：加藤 茂（ICCEED 兼務）  
講 師：宋 城基  
助 教：源城かほり、横田久里子  
技術専門職員：片岡三枝子

##### 〔計画分野〕

教 授：広島康裕、大貝 彰  
准 教 授：泉田英雄、松島史朗（CCR 専任）、浅野純一郎  
助 教：谷 武  
助 手：渋谷達郎

9月に着任されました。渋谷先生は建築設計の実務について豊富な経験をもっている方です。また、本学出身である松本幸大先生が米子高専から10月に助教として着任予定です。松本先生は山田聖志先生の指導のもと2年前に博士の学位をとられています。さらに、高専との交流人事として、柴田良一准教授が本学から岐阜高専に戻られ、4月から中澤祥二先生が柴田先生と入れ替わる形で本学に戻られました。

以上、若い先生の異動が多くありましたが、人事面での流動性の高まりが組織の活性化や個人のキャリアアップにもつながっていくという時代の要請にともな

うものと思われま。

これまでの状況と違ってきていると思われ最近気になっていることについて紹介します。学生の中に授業などについて行けず精神的に不安定になる者が増えてきています。これについてはもともと能力が十分な学生が無理に進学していることもあるように思われます。入学試験方法の改良が必要と考えます。

学生ばかりでなく、卒業生の中にも精神的に不安定になって職場をかわったとか、精神的に不安定になって家族のすすめもあり医者にかかったといった話を最近耳

にします。私が聞いたケースは非常に優秀で会社の中でも活躍が期待されている中堅の技術者でした。普通では精神的な病にかかるとは思われない人でも、会社で要求される成果があげられず何とかしようと頑張りすぎた場合には精神的に不安定になってしまうようです。具体的な成果が厳しく問われる職場ではこんなことが起きると予想されます。こんな場合、出来ないことは出来ないと割り切ってみることも必要かと思われま。余分なことを書きましたが、卒業生の皆さんが元気で活躍されることを願っております。

## 新任教員より

### 助教 源 城 かほり

2009年4月1日付で建設工学系助教として着任しました。お茶の水女子大学に6年在学し、博士前期課程を修了した後、1999年4月に開学した秋田県立大学システム科学技術学部建築環境システム学科に10年間勤務しておりました。豊橋技術科学大学の教員の中ではひょっとするとこれまでにない異色の経歴の持ち主かもしれません。研究テーマは住宅の省エネルギー性や室内熱空気環境の快適性、健康性の評価であり、卒業論文、修士論文は当時お茶の水女子大学生活科学部田辺新一先生（現・早稲田大学創造理工学部建築学科教授）にご指導いただきました。1999年10月以降は、秋田県立大学に教員として在籍しながら、東北大

学大学院工学研究科都市・建築学専攻吉野博教授のご指導の下、博士後期課程に社会人ドクターとして在籍し、その後学位を取得するまで、教員と学生といういわゆる2足のわらじ生活をしてきた時期が4年ほどありました。これまで勤務していた秋田県立大学は公立大学法人、豊橋技術科学大学は国立大学法人ということで大学の体制や目指すところもかなり異なっています。また、秋田では寒冷地住宅を研究対象としていましたが、豊橋に来てからは温暖地の住宅を相手にすることになります。いろんな意味で大きく環境が変わりましたが、皆様と協力して良い方向に発展していければと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。



### 助教 横 田 久里子

2009年9月に建設工学系衛生工学研究室助教として着任致しました。着任日が2学期の初日であり、豊橋の暑さに慣れる間も無く、秋を迎えようとしています。就職するまでは理学を専攻していましたが、その後ひょんなことから環境の分野で調査研究を行うようになり、この度工学分野に身を置くことになりました。居住地も生まれは四国松山から岡山⇒神戸⇒銚子⇒豊橋と落ち着きがなく転々としていますが、本業である教育・研究活動はしっかりと腰を落ち着けていこうと思っています。現在は、「流域に畑地を持つ河川への硝酸性窒素の流出機構の解明」を行うべく、さまざまなフィー

ルドに出かけて水を採取し、水質分析を行っています。また、水だけでなく大気物質循環にも大変興味を持っており、調査を兼ねて富士山や屋久島宮之浦岳に登るなど、積極的に学生さんと現場に出かけることをモットーにしています。厳しい現場での調査を経て学生さんが頼もしく成長する様は調査結果の楽しみ以上に楽しみです。まだまだ不慣れな部分も多く、先生方、学生の皆さんにご助力いただく日々が続いておりますが、教育・研究を通じて、少しでも本学の発展に貢献できればと考えています。同窓会の皆様、どうぞ宜しくお願い致します。



## 助手 渋谷 達郎

このたび、建設工学系の助手に着任いたしました渋谷達郎です。専門は建築設計およびランドスケープデザインです。これまで、設計事務所・建設コンサルタントにて、建築設計およびランドスケープデザインの実務を行ってきました。現在、持続可能な建築デザインについて研究を行っております。

持続可能性の問題は環境だけでなく、経済や社会など、総合的にとらえる必要があります。建物が持続するためには、物理的耐久性の向上や環境負荷の低減に加えて、その建物を利用する人々が建物に愛着を持ち、大切に使い続けること。そしてそのためには、建物自体が魅力的である必要があると

考えます。

こうした美的、心理学的観点から環境問題を考察することや生活の質や快適性の研究はこれまでほとんど行われておらず、こうした人間の側からの研究は、間接的にその地域の気候風土・伝統文化および周辺環境の問題と深く関わっており、これまで進んでいなかった総合的な持続可能性についての知見を含有している蓋然性があります。そこで、これらに関わるデザイン要素を「サステイナブル・デザイン」として分析、体系化することで明らかにし、私たちの身の回りの環境から建築都市空間まで、設計を通じて関わっていききたいと考えています。



## 高専・両技科大間教員人事交流

准教授 中澤 祥二

高専・両技科大間教員人事交流制度により岐阜高専の建築学科に1年間（平成20年度）勤務しました。この人事交流制度は、教員の力量を高め、各学校における教育及び研究の向上を図り、国立高等専門学校全体の活性化及び人事の流動性の確保することを目的として国立の高等専門学校の中でスタートし、現在では、両技科大も含めた人事交流となっています。ここでは、1年間の岐阜高専での生活を振り返り、甚だ個人的な感想ではありますが、大学と高専の生活の違いを書かせていただきます。

私のお世話になった岐阜高専の建築学科では、約10名（構造は4名）の教員が本科と専攻科の教育を担当しています。私は、構造力学、情報処理、鋼構造などを担当し、講義は1日に1コマ程度を担当しました。私が技科大で担当している科目と概ね同じでしたので、講義の準備は比較的スムーズに行うことができました。また、高専では低学年からある程度の専門科目を学習することもあり、1つの科目に十分な時間をかけて講義を行うことができるように思います。例えば、鋼構造という科目を例に挙げると、高専では4年、5年の通年で勉強し、さらに設計演習を選択で履修することができます。技科大では、これらの勉強を行った高専からの編入学生と1年次入学生が同じ教室で「鋼構造」の講義を受けるわけですが、難しい問題を含んでいることを実感しました。ちなみに、私は1年生からの進級した学生（第14期）で、学生時代の鋼構造は大変だったように記憶しています。

高専では、大学で経験したことのない「クラブ顧問、

「寮の宿直」を経験しました。私自身はあまりスポーツが得意ではなく、あまりスポーツをしません。しかしながら、本人の適性、希望とは無関係に、ソフトテニス部の顧問を言い渡されました。岐阜高専のソフトテニス部の活動は非常に活発であり、高専大会での優勝などの実績も豊富です。幸いにも、私以外に数名の顧問の先生がいらっしゃり、私も含めて親切に指導していただきました。1年間も顧問をしていれば、ソフトテニスも上手になるかと思いますが、実際には、土曜日、日曜日に開催される大会（高専だけでなく、高校の大会も含む）へ学生を引率するだけなので、ソフトテニスはまだ上手になっていません。

岐阜高専では、かなりの学生が寮で生活しています。教員は交代で、寮の日直と宿直を担当するわけですが、私の場合、1年間に4回ほど担当しました。私は高専の敷地内の教員宿舎に単身赴任していたので、宿直することには問題ありませんでした。また、幸いにもこれといった問題もなく、無事に終わりました。

最後になりましたが、岐阜高専の教員ならびに事務の方には、1年間、大変お世話になり、感謝しています。特に、柴田良一先生（岐阜高専）には、私と入れ替わりに豊橋技術科学大学に赴任され、研究室の面倒をみていただくとともに、岐阜高専での教育、研究ならびに生活面でのアドバイスをいただき、大変感謝しています。1年間という短い期間ではありましたが、この経験を生かして、豊橋技術科学大学の発展に少しでも寄与できればと考えています。

# 研究室だより

## 元気いっぱい！ 松島研究室

修士2年 渡邊 健志

5名で始まった松島研究室も今では留学生5名を含む、学部5名、修士課程21名、研究員1名の27名となりました。修士2年生をリーダーとして建築設計やまちづくり、建築デザイン教育といった幅広い分野の研究・プロジェクトを行っています。

豊川稲荷の門前町では、平成18・19年度に社会実験として実施した2店舗のファサード改修を皮切りに、現在は6店舗目の改修に着手しています。週に一度のワークショップ「木曜の会」や、月に一度のイベント「いなり楽市」を通して住民の声を聴き、地域と大学が一丸となってまちの活性化に取り組んでいます。

一方、昨年度、文部科学省のファカルティ・デベロップメント（教員教育）の一環として導入されたCAD/CAMラボ「Data2Form Laboratory」では、ものづくりテクノロジーの建築設計や生産への応用方法を研究・実践しています。今年の3月にはハーバード大学デザイン大学院のMartin Bechthold教授を講師に招いてシンポジウムを開催し、本学と関係の深い高専の教員とともに新たな建築デザイン教育のあり方について情報を交

換しました。

その他にも、学内ではCMP（Campus Master Plan）が進行しており、北設楽郡豊根村では、過疎・高齢化に悩む限界集落に学生が入り込み、交流拠点小屋づくりに奮闘しています。

今後も、先輩方から学んだ建築に対する熱意を継承しつつ、メンバー一同で研究室を盛り上げて参ります。



## 建設工学同窓会収支報告

建設工学同窓会 役員 谷 武（13期生）

平成20年9月1日から平成21年9月1日までの建設工学同窓会の収支決算

名 目	金 額 (円)
<b>■残 金</b>	
平成20年9月1日現在	2,287,657
<b>■収入の部</b>	
全学同窓会からの会費の分配金	400,000
預金利息	1,180
<b>■支出の部</b>	
全学同窓会報発送作業等費用	44,696
全学同窓会報郵送用封筒等印刷費	45,420
全学同窓会報郵送費用	152,005
<b>■残 金</b>	
平成21年9月1日現在	2,446,716

# 第七工学系

## 知識情報工学系より

### 学内近況報告

知識情報工学系 系長 増 山 繁

卒業生、修了生の皆様、お元気でご活躍のことと存じます。知識情報工学系の近況をご紹介します。本年度まで増山が系長、岡田美智男教授が系長補佐を勤めています。人の動きに関しては、藤島助教が本年度4月より金沢高専に准教授として栄転されました。

就職に関しては、昨年秋のリーマンショックに引き続く世界大不況により、全国的に企業の採用枠が大幅に減少しましたが、9月末時点での就職の内定率はM2, 90%, B4, 100%で、昨年度とほぼ同様の実績です。情報、電気、機械、化学など多岐に渡る業種の関東、中部、関西の上場企業から多くの求人をいただいています。これもOBの皆様のご活躍の賜物と厚く感謝申し上げます。

本系の岡田美智男教授が中心となって申請した文部科学省産学連携による実践型人材育成事業（平成19年～21年度）「次世代ロボット創出プロジェクトー地域や世代間の協働による創造的・実践的かつ指導的技術者の育成ー」に引き続き、本年度、文部科学省の理数学生応援プロジェクトに同じく岡田美智男教授が中心となって申請した「TUTオープンチャレンジプロジェクト」が採択されました。本学学生のモノ作りマインドの受け皿として、多様な技術分野・年代層の学生の参加する「オープンラボ」を創設し、そこで生まれる組織知を生かしながら、個人の技量では達成できない、高い技術水準を有する未来志向のロボットやデジタルメディアを企画立案し、プロトタイプ構築や外部展示などを行う実践的プロジェクト（オープンチャレンジプロジェクト）です。国内の技術展示や国際レベルのコンペティションに参加させながら、卓越した技能・センスを備え、創造性豊かなトップレベルの技術者（スーパーエンジニア）を養成することを目指しています。

また、「環境問題に対するICT（情報通信技術）の可能性を考える」をテーマとするワークショップなどを含む豊橋技術科学大学「大学生国際交流プログラム」が11月24日（火）から30日（金）に開催されました。これは、本系石田好輝教授が中心となって企画されたものです。バンドン工科大学（インドネシア）とベトナム国家大学ハノイ校工科大学の学生を招き、本学の学生と交流することで相互理解と国際理解に関する関心を高め、グローバル化した現代社会において国際的に活躍できる人材を育成することを目的としています。

本学は、平成22年4月より、再編を行い、4系と7系をほぼ併せて、情報・知能工学系となります。これは、7系側から見ると情報分野のうち、ハードウェア、情報

通信分野を強化することになります。ロボットや組み込みソフトなど、ハードとソフトの両方の知識が要求される分野も多く、これを機会に、より充実した研究・教育を行なっていく所存です。

末筆ですが、同窓生の皆様の今後の益々のご活躍とご発展をお祈り申し上げます。

教職員一覧及び学生現員（平成21年9月現在）

#### [情報科学分野]

教 授：磯田定宏、増山 繁、石田好輝  
准 教 授：河合和久、市川周一、村越一支  
助 教：相田 慎、酒井浩之、原田耕治

#### [機能情報工学分野]

教 授：新田恒雄、堀川順生、岡田美智男  
准 教 授：金澤 靖、北崎充晃\*  
講 師：桂田浩一  
助 教：杉本俊二

#### [分子情報工学分野]

教 授：関野秀男、高橋由雅  
准 教 授：栗田典之、後藤仁志  
講 師：加藤博明  
助 教：墨 智成

#### [事務関係]

事 務 職 員：佐野友子、河合奈穂子  
技術専門職員：小西和孝

#### [学生現員]

学 部：1年次 10名、2年次 11名、  
3年次 61名、4年次 68名  
修 士：1年次 52名、2年次 55名

\* 未来ビークルリサーチセンター所属

## 7系同窓会収支報告

#### ■ 収入の部

項 目	平成20年度決算
前年度繰越金	4,979,188
会費（各系分配金）	450,000
預金利息	6,519
収入合計	5,435,707

#### ■ 支出の部

項 目	平成20年度決算
会報経費	
会報発送費	80,950
会報発送作業費	29,207
原稿執筆御礼	10,000
クラス会援助金	20,000
小 計	150,157
次年度繰越金	5,295,550
支出合計	5,435,707

# 本学名誉教授 齋藤制海先生ご逝去に寄せて

## 齋藤制海先生追悼文

知識情報工学系 系長 増 山 繁

本学名誉教授齋藤制海先生におかれましては昨年12月12日にご逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。齋藤先生は、昭和53年4月以来、本学情報工学系に勤務され、昭和63年度より1年次学生、平成元年度より3年次学生を受け入れた知識情報工学系創設に際し、系のグランドデザインに携われるなど、多大な貢献をされました。また、平成元年から、平成9年6月に千葉大教授として転出されるまで、本系教授として発展に尽力されました。公開講座ーミニ大学院アフターファイブコースや、高専教員上級講習会、工業高校教員向け情報処理講習会を開始されるなど、時代の先をみて地域貢献、高専、高校などへの貢献・連携に尽力されました。暖かいお人柄と高い見識を持って我々後進を教え、導いてくださいました。

また、情報工学系時代も含め、多くの学生を育てられ有為な人材を多数、社会に送り出してられました。お人柄から、学生から慕われておられ、研究室はいつも大変な人気でした。昨年11月1日に、知識情報工学系一期生クラス会が本学で開かれ、20名近いOBが集まりました。その中で、齋藤研究室のOBも大勢参加され、先生のことを懐かしく思い出しておられました。

甚だ簡単ではございますが、弔意とともに、知識情報工学系への先生の多大なご貢献に対し改めて深謝の意を表させていただきます。

末筆ですが「齋藤制海先生を偲んで」をお寄せいただいた情報工学系齋藤研究室1期生、板谷雄二先生に厚くお礼申し上げます。

## 齋藤制海先生を偲んで

朝日大学経営学部情報管理学科 教授 板 谷 雄 二 (昭和57年修士課程情報工学専攻修了生)

本学名誉教授齋藤制海先生は平成20年12月12日に逝去されました。享年64歳でした。私のような1期生にとっては、伝統のない大学を築き上げ、盛り上げていった齋藤先生のような先生がいらっしやらなくなるのは誠に残念です。

齋藤先生は、1期生とともに昭和53年4月に本学に講師として着任され、昭和55年4月に助教授、平成元年4月に教授に昇任されました。平成9年6月には千葉大学工学部教授として豊橋を去られましたが、千葉大学に移られてからも、電気電子工学科長、共同研究推進センター長、学長特別補佐、知的財産副本部長と要職を務められました。研究活動としては、多次元システム理論とその応用、数式処理の制御工学への応用、最適フィルターと最適決定論、製鉄プロセス制御、生体用電力供給システムと医療情報伝達システムなど広範囲に及んで活躍され、それらの分野の発展に多大な貢献をされました。

豊橋を去られても、東京では卒業生・修了生が毎年集っています。先生を慕う門下生が非常に多いことの現れです。先生は、いろいろなことを我々に伝えてくれました。研究面だけではなく、生き方までもです。

それが「齋藤語録」となって、われわれの中に生き続けています。

私事になりますが、私が修士課程修了時にはまだ本学には博士(後期)課程がありませんでした。私が修士2年生のときでしたが、学会の大会が私の実家の近くで開催されたとき、他大学院の博士課程への進学を家族に説得されるために、わざわざ実家まで来られたのです。現在私は大学の教員をしていますが、このようなことはとても自分にはできません。そのようなことを簡単にやり遂げてしまう先生の凄さを、最近とみに痛感してきています。

実のところ、この追悼文はなかなか書き出せませんでした。なぜならば、書くことによって、先生の素晴らしさが思い出されてしまい、もう先生にお会いできない、先生にご相談できないと、せつなくなると思ったからでした。実際、うまく表現できず、もどかしく感じます。

指導教官のみならず、コーチでもあり、メンターでもあり、さらには父親のようでもあった先生のご冥福をお祈りいたします。

# 研究室だより

## 新田研究室の近況

知識情報工学専攻 修士1年 小野田 高 幸

卒業生・修了生の皆さま、いかにお過ごしでしょうか。研究室は、現在、新田恒雄教授と桂田浩一講師をはじめとし、博士1名、修士7名、学部4名で構成されています。今年はほかに、博士課程と修士課程の留学生が各1名参加の予定です。研究室は、発足から11年目に入り、①エンジングループ (ENG)、②マルチモーダル対話グループ (MMI)、③インファントエージェントグループ (IA) とともに、新たな目標を設定して、活発に研究を行っています。

エンジングループでは、これまでの諸先輩の研究成果を活かし、調音運動のワンモデル音声認識・合成エンジンを開発しています。音声認識と合成は別のシステムとして開発されてきましたが、調音という共通モデルを導入することで、人間のように、同じシステムで両者を実現できました。この発表は学会でも注目されています。研究室では、英語発音訓練ソフトなどへの応用を、入部百合絵助教が参加し進めています。最近のトピックとしては、ほかに、1万時間クラスの膨大な音声ドキュメントから、キーワードを1秒以下で検索する技術の開発が挙げられます。顔表情認識エンジンの方も頑張っています。

マルチモーダル対話グループは、これまで諸先輩が開発してきた、記述言語を利用し、これも研究室が推進してきた情報処理学会の試行標準「6階層モデル」を実証するシステムを開発しています。最近、携帯の普及で音声とペンなど、マルチモーダル対話が注目されていますが、よい記述言語がないため、研究室への問い合わせが増えてきているようです。



インファントエージェントグループは、これまでの概念獲得・対話戦略獲得を一段落させ、ロボットがシーン(映像・音声)から、自身の役割を判断できる技術などを開発しています。これから多くの優れた研究成果を発表していきたいと思っています。

恒例の夏の合宿は、昨年度が蓼科山登山、今年度は箱根登山で実施しました。先生も大分調子が戻っているようですのでご安心ください。研究室の近況やメンバーについては、ホームページで公開しています。是非ご覧ください。また、お近くにお越しの際は気軽に研究室にお寄りいただき、在学中やその後の貴重なお話を聞かせていただければ幸いです。一同、心よりお待ちしております。

## 岡田研究室の近況

知識情報工学専攻 修士1年 角 裕 輝

卒業生、修了生のみなさん、そして岡田研究室OBのみなさん、いかにお過ごしでしょうか。それぞれの職場でご活躍されていることと存じます。

岡田研究室では、いま、博士1名、修士8名、学部3名の計12名が岡田美智男教授の指導のもとで研究活動に励んでおります。

本研究室では、社会的ロボティクス (Social Robotics)・関係論的ロボティクス (Epigenetic Robotics) など、人とのコミュニケーションの成立や社会的関係の形成過程、人との関わりの中での認知発達機構の解明などを狙いとす次世代ロボットの研究をしています。「学会発表は人を遅くする」、「論文発表は知的なゲームだ」というスローガンのもと、学会発表や論文発表などを積極的に行っています。今年、インタラクション2009、IVRC2009、HISシンポ、HAIシンポでの発表や論文投稿を行いました。今年度のIVRC2009では、プレゼンテーション審査を通過し、日本科学未来館での東京大会



では「Laval Virtual Award」、「岐阜VR大賞」を受賞しました。来年4月のLaval Virtual 2010において招待展示される予定です。

研究活動以外の行事では、恒例の夏の合宿を行っています。一昨年から始まりました「次世代ロボット創出プロジェクト」では、京都造形芸術大学と共同でロボットを制作しています。今年も新たなメンバーを迎えるべく、夏の合宿では、京都造形芸術大学でプロジェクトのプロモーションやデモンストレーションを行いました。また、ミーティングの場で新しいロボットのアイデアについて白熱した議論が行われました。プロジェクト

に参加される学部3年生も過去最多になる見込みで、今年もまた忙しくも充実した日々を送ることができそうです。

最後になりましたが、みなさま多忙な日々をお過ごしのことと思います。何かのときに豊橋近辺へいらっしゃることがありましたら、是非、研究室にお立ち寄りください。社会人生活の厳しさ、大学生活との違い等々について、貴重なお話を頂ければ幸いです。

## 河合研究室の近況

### 研究室一同

卒業生・修了生のみならず、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場でご活躍のことと存じます。さて、河合研究室の近況について報告させていただきます。現在の河合研究室に在籍する学生は、修士2年4名、修士1年3名、学部4年3名、の計7名となっています。最近では、だいたいこのくらいの人数です。

研究内容も、各自がそれぞれにテーマを持ち、取り組んでいます。小学校での情報教育、ロボカップ・サッカー、JABEE教育プログラムの支援システム、音風景、カード操作ツール、敬語学習支援など多種多様です。小学校の情報教育は、コンピュータ上の校区地図を用いて、調べ学習などで調べたことを地図中にはりこみ、以後の学習に活用することを支援するシステムや、仮想図書館システム、先生のテスト添削を支援するシステムなどです。校区の危険箇所を調べ、より安全な帰宅経路を提案するシステムの開発に取り組んでいる学生もいます。ロボカップ・サッカーでは、コーチングを行なうシステムの開発を行なっています。シミュレーションリーグ用のチームをより強くするためのコーチによるトレーニング・システムです。JABEEの支援システムは、高専との共同研究で、豊田・函館の両高専と行なっています。今年、この研究に参加していた高専専攻科生が本研究室に進学してきました。音風景やカード操作ツール、敬語学習支援に関する研究は、新4年生が新たに取り組んでいるものです。河合先生は、一昨年あたりから、サイエ

ンスカフェ（図参照）に勤しんでらっしゃいます。

ときに研究室の先輩方が、リクルート等で研究室に立ち寄ってくださることがあります。社会のお話をうかがえて、とても勉強になります。豊橋の近くにお越しの際には、ぜひ、研究室の方にもいらしてください。

最後になりましたが、先輩方のさらなるご活躍をお祈り申し上げます。

**第33回東三河サイエンスカフェ**  
2009年6月18日（木）  
午後6時30分～8時00分  
豊橋駅前サテライトオフィス

<http://www.ita.tutkie.tut.ac.jp/~kawai/cs/>

サイエンスカフェは、講演会や体験講座とは違い、ゲストスピーカーや座長の参加者とのフランクな話し合いを重視したものです。どうぞ、サイエンスについて語り合いたい方を募集させていただきます。

**チェロのひみつ**

映画「おくりびと」で、チェロの美しい音色のファンになった方もおありかと思います。チェロは「イタリヤの神童」で、ほとんど同じ方法で作られている。今回は、生演奏を交えながら、チェロの知られざる世界に迫りたいと思います。

- ・ どうやって作られるの？
- ・ 音の響きは何故なの？
- ・ なぜ古くにするのが噂なの？
- ・ ドレミファ（音階）はどうなるの？

これらの質問には物語的な意味（ひみつ）があるはずですが、少し調べてみましたが、とても私の手にも届くものではありませんでした。ぜひみなさんの力で、さらに深く掘りかきヒントをいただきたいと思っております。



★対象：高校生以上とご予定でも、参加費無料、定員20名、定員に達し次第締め切ります。事前に参加申込をしてください。

★申込：参加希望の方は、「第33回参加希望」と題して「氏名」「年齢」「連絡先（電話番号またはメールアドレス）」をお知らせの上、下記のメールアドレスまたはFAXまでお申込みください。

★三河サイエンスカフェ事務局  
メール：cs@ita.tutkie.tut.ac.jp  
FAX：0532-44-1904  
申込締切：6月17日（水）正午

★ゲストスピーカー：  
白井 邦昭 先生  
豊橋市立二小中学校  
★先生の専門：  
理科（物理）  
★先生からの一言：  
大勢の若からチェロを始め、器楽科よりも音楽科で過ごした時期の力がはるかに強い、不思議な響きの学生でした。今回は、スペインで定期的に練習するようになり、改めて目でチェロのひみつと魅力をを感じていただければ幸いです。

Copyright (c) 2009, Executive Committee of HIGASHI-MIKAWA Science Cafe.

## 知識情報工学系 第1期生クラス会 報告

人文・社会工学系 准教授 渋谷 博 幸

平成20年11月1日（土）に、豊橋技術科学大学にて、知識情報工学系第1期生のクラス会を行いました。大学を修了後、約20年ぶりの初めてのクラス会ということもあり、同期生の連絡先を集めるところから始まりました。約20名の同期生が、全国から豊橋に集まりました。本学のひばりラウンジで、各自の近況と活躍ぶりの紹介から始まり、そして第7工学系系長増山教授からは最近の大学の状況や7系の取り組みについてお話を頂きました。7系技術専門職員の小西様からは、第1期当時の「知識情報工学だより」を配っていただきました。当時の集合写真（桜淵公園での芋煮会）や科目の紹介などが掲載されており、同期生に大変好評のようでした。懐かしい友人とのひとときを楽しむことができました。最後に、

クラス会の開催について、7系同窓会からご支援頂きましたことお礼を申し上げます。





# 第八工学系

## エコロジー工学系より

### 学内近況報告

エコロジー工学系 系長 木曾 祥 秋

エコロジー工学系同窓生の皆様、お元気にご活躍のことと存じます。一昨年来の世界的不況から未だ脱出できず、学生の就職も例年より厳しい状況にあります。今年9月には、総選挙が行われ政権交代がなされるなど、国内外ともに激動の時期を迎えておりますが、本学においても学科再編という激動期にあります。このことは、後でご紹介しますが、例年どおり、エコロジー工学系の近況についてご紹介いたします。

まず、教員の異動につきまして、本年4月に小口達夫先生が准教授に昇任されました。本系の教員の充実が図られ、教育研究が一層進展するものと思います。一方、先端農業・バイオリサーチセンターの研究員で、「東三河IT農業先端士の養成事業」に従事されていた九里徳泰研究員が、富山県立大学の地域連携センター教授として転出されました。

エコロジー工学系では、例年通り恒例のエコロジー工学系ソフトボール大会大竹杯が5月に開催されました。今年度は田原市役所環境部チームの参加もあり、悪天候にもかかわらず熱戦が繰り広げられました。ソフトボール大会の後に催す懇親会に、今年はエコロジー工学系同窓会にも参加を頂き、「エコロジー工学系親睦会」が催されました。厚生棟1階に新設されたコモンズIにおいて開催され、180名を越える同窓生・現役学生・教員が集いました。退職された笠倉先生、また転出された倉田先生や二又先生も遠方よりご出席くださいました。出席された皆様に、「学科再編」について簡単にご紹介しました。

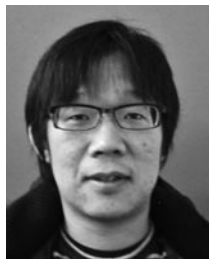
エコロジー工学系では、生命工学、環境創生、生態環境システムの各教育研究分野に所属する教員・学生は、引き続き活発な研究を推進しております。また、エコロジー工学系と連携して、工学教育国際協力センターと先端農業・バイオリサーチセンターにおいても研究が進められています。本系教員の質の高い活発な研究活動を証明するかのよう、次に示すような受賞がありました。北田敏廣教授は、2008年12月に環境省より「平成20年度大気環境保全活動功労者表彰」を授与され、さらに、今年9月に「大気環境現象の数理モデルに関する研究」に対して「平成21年度大気環境学会学術賞」を授与されました。廿日出好助教は、今年6月に超伝導エレクトロニクス国際会議ISEC 2009において、「Young Researcher Award」を授与されました。また、学生の研究発表についても次のような受賞がありました。環境・生命工学専攻（博士課程）2年の蒲原弘

継さんが、2008年12月に「第8回エコバランス国際会議ポスターセッション」における「Greenhouse Gas Balance on Life Cycle of Biodiesel: A Case of Palm Biodiesel Production in Indonesia」の研究発表に対して銅賞を授与されました。環境・生命工学専攻（博士課程）3年のSYAMSIDIKさんが、今年1月に「第15回エコテクノロジーに関する国際会議（ASET-15）」において、「Performance of Non-Freon CO<sub>2</sub> Refrigeration Cycle Using Two-Phase Ejector」の研究発表に対して「Student Award」を授与されました。環境・生命工学専攻（後藤研究室）博士課程3年の蒲原弘継さんが、今年9月に「環境科学会2009年会」において発表した「明治時代から現代にかけての日本の物質・エネルギーフローの変遷」に対して「最優秀発表賞（富士電機賞）」を授与されました。

本学では、従来から学科再編に向けて計画を進めておりましたが、本年6月に文部科学省より平成22年度からの再編計画が認められ、現在は再編に向けての具体的な準備を進めています。再編計画では、現「エコロジー工学系」は現「物質工学系」とともに「環境・生命工学系（新IV系）」として再出発します。「環境・生命工学系」では、「未来環境工学コース」と「生命・物質工学コース」の2つのコースが設置されます。現「エコロジー工学系」の教員は、これら2つのコース分かれていますが、ひとつの系として教育・研究を担ってまいります。なお、現在学部1年次及び修士1年時に在籍している学生は、従来通り「エコロジー工学課程」あるいは「エコロジー工学専攻」として卒業します。また、現在のカリキュラムは3学期制で編成されていますが、学科再編と併せて、2学期制のカリキュラムに変更します。学科再編と学期制の変更を同時に行いますので、その準備に追われています。2学期制となりましても、本学の教育の特色である実務訓練は、従来通りの時期に実施する計画です。実務訓練では卒業生の皆様にお世話になっておりますが、これまでと変わらずご支援いただきますようお願い致します。

1993年にエコロジー工学系が設立されて以来、今年で17年目を迎えております。「エコロジー工学」という名称が無くなるのは、卒業生諸氏にとって寂しいことと思っておりますが、系がさらには大学全体がさらに飛躍するための再編であることをご理解いただき、新「環境・生命工学系」の今後の発展を支えていただきたく、一層のご支援をお願いする次第です。末筆ながら、同窓生の皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

## 新任教員より



エコロジー工学系 助教 山田 剛史

平成20年10月1日付けでエコロジー工学系の助教として着任致しました山田 剛史（やまだ たけし）です。私は、宮城高専の建築学科を卒業し、本学とは別のもう一つの「技術科学大学」である長岡技術科学大学にて博士後期課程を修了致しました。なので、私は、生粋の高専-技科大育ちであります。長岡技術科学大学での博士後期課程を修了した後、私は、博士研究員として東北学院大学工学部環境防災工学研究所で2.5年間研究業務に従事し、現職に着任致しました。長岡技術科学大学時代に微生物を用いた環境保全技術の研究に取り組んで以来、(1) 嫌気性廃水処理プロセスのバルキング現象（汚泥が浮上・流出してプロセスが破綻する現象）の解明とその制御技術の開発、(2) 温室効果ガス（亜酸化窒素）の発生を抑制した窒素除去プロセスの開発や(3) 温室効果ガス（亜酸化窒素やメタン）および臭気（アンモニア）の発生を軽減するコンポスト製造技術など様々な微生物を利用した環境保全技術の開発に携わってきました。これまでの研究を通して思うことは、「微生物」と

いう小さな小さな生き物の偉大さとその魅力です。廃水処理施設の汚泥、河川水や土などの身近な試料を採取して顕微鏡下で観察してみると、本当に多種多様な「微生物」の姿を見ることが出来ます。これらの微生物たちが、互いに相互補完的に機能することにより、環境汚濁物質（有機物や窒素化合物など）が浄化されていくのです。しかしながら、現在でも、そのほとんどが、名もなき英雄（未知微生物）であり、どのような役割を果たしているのかもあまり分かっていません。

生物学的な環境制御・保全技術の発展・向上は、このような複雑かつ未知な微生物たちを如何に理解し、コントロールするかにかかっているとって過言ではありません。その前には、開拓すべき広大なフロンティアが広がっております。小さな「微生物」たちの声に耳を傾け、近未来へ向けた新たな環境保全技術の創成に向けて、学生の皆さんと一緒に頑張っていきたいと思っております。今後とも、ご指導・ご鞭撻の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 研究室だより

### 水野・高島研究室の近況

エコロジー工学系 助手 栗田 弘史

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場で大いに活躍のことと存じます。本稿では水野・高島研究室の近況についてご報告します。現在、水野・高島研究室では、水野彰教授・高島和則准教授・安田八郎助手・私の4名の教員、博士課程学生6名、修士課程18名（M2 9名・M1 9名）、学部学生8名が日々研究に取り組んでいます。非常に個性豊かな「濃い」メンバーが多く、飽きることはありません。

水野・高島研究室では、高電界・静電気工学をベースとして、高電界で発生させるプラズマを利用する環境技術の開発、あるいは静電気力などを利用する1分子操作・計測技術の研究を中心に研究を行っています。高

電界で発生させるプラズマを利用する環境技術の開発では、現在社会的にも急務であるディーゼルエンジン排ガスの浄化、室内空気の浄化、有機溶媒や臭気物質の除去、浮遊微生物やウイルスによる感染防止やアレルギー抑制などに関する研究を行っています。ディーゼルエンジン排ガスの浄化では、電気集塵技術を用いてフィルター等では除去することが困難な直径数十ナノメートル程度の微粒子の高効率捕集技術の開発を行っています。併せて非平衡プラズマによる化学反応を利用してディーゼルエンジン等の排ガス中の窒素酸化物（NOx）や硫黄酸化物（SO<sub>2</sub>）等の除去を行うガス浄化技術の開発研究を行っています。これらの研究は企業と共同で

行われ、実用化に向けて一層研究を進めております。また放電プラズマを用いた室内環境浄化では放電による殺菌技術を中心に行っております。現在生化学的・分子生物学的手法を用いた放電による殺菌のメカニズムの解明も併せて行っております。また応用技術として放電による遺伝子導入も検討しております。

また生体高分子の1分子操作・計測では「1分子DNA」をキーワードに研究を進めております。静電気力や表面処理、光ピンセット、マイクロ流路など様々な要素技術を組み合わせることにより1分子DNA解析に適した操作技術の検討を行っております。また極微量の反応溶液でDNA 1分子を対象とした多彩な酵素反応を可能にする微小反応場を形成し、ハイスループット・微小容量・多種類同時反応系の構築を目指しています。

これら日々の研究成果は国内外で発表され、学生にとって貴重な経験になっております。今年度も6月に数名がアメリカ・ボストンで発表を行ってまいりました。また、学会などで賞をいただいた学生もおります。また研究以外の活動も活発に行っております。8月には奥飛騨へ研究室旅行に出かけてまいりました(写真は新穂高ロープウェイ展望台で撮影しました)。またバーベキューな

どが随時行われ大いに盛り上がりしております。

研究室の最新情報は水野・高島研究室ホームページ(<http://www.eco.tut.ac.jp/mizlab/>)で随時更新しておりますので、ぜひ御笑覧ください。

最後になりましたが、皆様の今後の更なるご活躍を祈念いたしております。また、豊橋近辺へお越しの際にはぜひ本学にお立ち寄りください。



## エコロジー工学系親睦会

工学教育国際協力研究センター 准教授 大門 裕之

平成22年度から環境・生命工学系に移行することが決定し、エコロジー工学系全体で同窓生を含めた初めての親睦会を、平成21年5月16日(土)に開催しました。

当日は、朝から毎年恒例のエコロジー工学系ソフトボール大会大竹杯が開催されました。数年前から、参加してくれる同窓生の数も増えてきております。最近では、教員・同窓生チームとして、決勝リーグからエントリーをし、熱戦を繰り広げております。今年度は、田原市役所環境部チームのエントリーもありました。

数日前からの天気予報に従い、憩いの広場で予定をしておりました親睦会(バーベキュー大会)を、食堂下書店横を改築してできたコモンズIで開催しました。180名を超える同窓生・現役学生・教員が集まりました。教員では、退職されました笠倉先生、異動されました二又先生や倉田先生が遠方よりご出席をいただきました。木曾系長の乾杯で始まり、菊池副学長の乾杯で親睦会を盛大な内に無事終えることができました。

今回は、再編が急に決定したこと、同窓会名簿の更新作業が進んでいなかったこと等を理由に、研究室ごとで電子メールにより親睦会の案内をさせていただきました。そのために、「同窓会」という名称を使わずに「親睦会」としました。次回、現在行っております同窓会名簿更新作業が落ち着きましたら、エコロジー工学系全体で「同窓会」が開催できることを願っております。



## エコロジー工学系同窓会記念樹

去る5月16日（土）に開催されたエコロジー工学系親睦会開催の際、同窓会の記念植樹を行いました。当日は、残念ながらの雨天であったため、式典は行いませんでした。植樹場所は、G1棟北側です。

成長が早く、比較的短命であるイロハモミジ（カエデ科）・花の咲き方が「隣の枝のことはおかまいなし」という感じで、木全体の調和の美、均整の取れた美とは縁遠く、まさに1本1本の枝がその個性を主張しているサルスベリ（ミソハギ科）・枝先で若葉が一斉に開くと、まるで席を譲るかのように古い葉は落葉する。実には

毒があり食用にはならないが、葉が大きく存在感のあるヒメユズリハ（ユズリハ科）を記念樹として選びました。全てエコロジー工学系らしくありませんか？

本学へお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。手入れをし、しっかりと面倒を観ていきます。将来、環境・生命工学系が発展し、G1棟北側に建物が増築される際には、場所を移転させる予定です。次回は、その際に成長した記念樹を紹介させていただきます。それまでお楽しみに。



左からイロハモミジ、サルスベリ、ヒメユズリハ 2009年7月撮影

## 8系同窓会収支報告（H20年度）

（平成20年4月～平成21年3月分）

### ■ 収入の部

項目	金額(円)
前年度繰越金	5,062,135
預金利息	6,594
収入合計	5,068,729

### ■ 支出の部

項目	金額(円)
会報経費	
会報発送費	87,570
会報発送作業費	10,000
発送用封筒代	8,079
小計	105,649
次年度繰越金	4,963,080
支出合計	5,068,729

平成20年度全学同窓会から8系同窓会への分配金は、平成21年11月に確定・配分(340,000円)されました。平成21年度の会計に反映されます。また、平成21年度より新規の会費については各系に分配せず、全学同窓会の口座で管理することになりました。

# 第九学系

## 人文・社会工学系より

### 系内近況報告

渋澤 博幸

人文・社会工学系のメンバーは、山口誠教授を系長として、教育と研究の活動を元気に続けています。昨年、伊藤先生と小杉先生が御退官されました。

#### 〔教職員一覧〕

##### 〔人文・社会工学系〕

教授：山口 誠(系長：併)、山本 淳、浜島昭二、藤原孝男、宮田 譲

准教授：相京邦宏、尾崎一志、渋澤博幸、中森康之、平松登志樹、David Levin

講師：印南 洋

##### 〔語学センター〕

教授：神野清勝(センター長：兼務)、山本 淳(副センター長：併)、

准教授：田村真奈美

助手：鈴木聖子

##### 〔留学生センター〕

教授：神野清勝(センター長：兼務)、浜島昭二(副センター長：併)、氏平 明

准教授：加藤三保子、林 孝彦、村松由起子、吉村弓子

##### 〔体育・保健センター〕

教授：安田好文(センター長)

准教授：佐久間邦弘

##### 〔未来技術流動研究センター〕

教授：岩本容岳

### 計画・経営科学分野の近況

菅原 喬史

修了生・卒業生の諸先輩方、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場で大いにご活躍されていることと存じます。

現在の計画・経営科学分野は、山口誠教授、宮田譲教授、藤原孝男教授、平松登志樹准教授、渋澤博幸准教授をはじめ、博士課程2名、修士課程14名、研究生4名で構成されています。

本研究室の学生は、本学の中でも非常に特色のある人員構成になっています。国籍構成は、日本(3名)、中国(13名)、モンゴル(1名)、ベトナム(1名)、インドネシア(1名)、バングラディシュ(1名)と、多国籍です。また、男女比は5:5となっており、女性の割合が全額で10%を下回る本学の中では、かなり高い割合です。

本研究室の研究分野は、経済学・経営学に関するものであり、その中心は政策論・計画論・経営管理論となっています。また、これらの主分野に工学的な考え方を取り入れた社会工学の確立を大きなテーマの一つとしています。研究内容としては、社会経済や環境の構造分析・将来予測、政策評価手法の開発及び政策や計画支援システムの策定を行っております。詳しくは研究室のホームページをご覧ください。(http://pm.hse.tut.ac.jp)

学生の研究テーマとしては、「バイオベンチャーの創業戦略への金融工学への応用」、「中国における製造業の技術開発の戦略的提携に関する研究」、「ハイブリッド自動車等の次世代型自動車の登場による経済波及効果分析」などに取り組んでいます。また、今年は本研究室の出身者である中澤氏が日本地域学会修士論文賞を受賞しました。東三河地域の計量経済分析の成果が評価されました。

豊橋においでの際は研究室にぜひいらして下さい。職場での話など聴かせていただけると幸いです。最後になりましたが、先輩方の今後のより一層のご活躍を期待しております。

## 第58回東海地区国立大学体育大会成績結果一覧

1 日 時 平成21年5月16日(土)・23日(土), 6月13日(土)・20日(土)・21日(日)・27日(土)・28日(日),  
7月4日(土)・5日(日)・11日(土)・12日(日)

2 場 所 名古屋市瑞穂陸上競技場外19会場

3 幹事大学 静岡大学

4 成 績

(男子)

競技種目	大学名	浜医大		愛教大		三重大		名古屋大		岐阜大		名工大		豊技大		静岡大		備 考
		順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	
1	陸上競技	8	1	1	10	5	4	3	6	4	5	6	3	7	2	2	8	
2	水泳	7	2	5	4	4	5	1	10	2	8	6	3	8	1	3	6	
3	硬式野球			3	4.5	5	2	2	6	5	2	3	4.5	5	2	1	8	
4	準硬式野球			1	8	5	2	3	4.5	2	6	5	2	5	2	3	4.5	
5	硬式テニス	1	8	5	2	5	2			3	5	2	6	4	4	5	2	
6	ソフトテニス			5	2	1	6			3	4	4	3	6	1	2	5	
7	バスケットボール	7	1	6	2	1	8			4	4	5	3	2	6	3	5	
8	バレーボール	7	2	3	6	6	3	4	5	1	10	8	1	5	4	2	8	
9	卓球			7	1	3	5	1	8	4	4	5	3	6	2	2	6	
10	バドミントン	6	3	4	5	3	6	5	4	1	10	7	2	8	1	2	8	
11	サッカー	1	10	8	1	3	6	5	4	7	2	6	3	4	5	2	8	
12	ハンドボール	6	1.5	1	8	6	1.5	2	6	3	5	4	4			5	3	
13	柔道			5	2	4	4	2	6	1	8	5	2	5	2	3	5	
14	剣道	7	2	2	8	3	6	5	4	1	10	6	3	8	1	4	5	
15	空手道	2	8	7	2	6	3	1	10	4	5	5	4	8	1	3	6	
16	弓道	2	8	4	5	1	10	6	3	7	1.5	5	4	7	1.5	3	6	
17	体操							2	/	1	/					3	/	オープン競技
18	馬術			4	2	2	5	4	2	1	6	4	2			3	4	
19	アーチェリー			2	4	3	3	1	5	4	1.5					4	1.5	
20	少林寺拳法			1	5	4	1.5	2	4	3	3					4	1.5	
合 計 得 点			46.5		81.5		83		87.5		100		52.5		35.5		100.5	
男 子 順 位			7		5		4		3		2		6		8		1	

(女子)

競技種目	大学名	浜医大		愛教大		三重大		名古屋大		岐阜大		名工大		豊技大		静岡大		備 考
		順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	
1	陸上競技	5	2	1	6	6	1	3	4	2	5					4	3	
2	水泳	5	3	2	6	1	8	4	4	6	2	7	1			3	5	
5	硬式テニス	4	3	3	4	5	1.5			2	5	5	1.5			1	6	
6	ソフトテニス			1	4	4	1			3	2					2	3	
7	バスケットボール	5	1	4	2	2	4			3	3					1	5	
8	バレーボール	4	2					3	3	1	5	5	1			2	4	
9	卓球			2	5	4	3	1	6	5	2	6	1			3	4	
10	バドミントン	6	2	3	5	5	3	2	6	4	4	7	1			1	8	
12	ハンドボール			1	/					2	/							オープン競技
13	柔道				/		/		/		/		/					オープン競技
14	剣道			1	5	3	3	4	2	2	4					5	1	
15	空手道	1	6	6	1	5	2	4	3	3	4					2	5	
16	弓道	2	8	3	6	1	10	6	3	5	4	4	5	8	1	7	2	
17	体操									1	/					2	/	オープン競技
19	アーチェリー			2	3	3	2	4	1	1	4							
合 計 得 点			27		47		38.5		32		44		10.5		1		46	
女 子 順 位			6		1		4		5		3		7		8		2	

## 平成20年度 卒業・修了者の就職先一覧 (50音順)

平成21年3月31日現在

No	就職先	M	B	D
1	(株)ACCESS	2		
2	AHSANULLAH UNIVERSITY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY			1
3	Andalas University			1
4	Andalas University Faculty of Engineering	1		
5	CANON OPTO (M) SDN. BHD		1	
6	Central Engineering Consultancy Bureau	1		
7	Hanoi University of Technology			1
8	HOYA(株)	1		
9	(株)IMAGICA	1		
10	(株)JSOL	1		
11	KDDI(株)	1		
12	(株)Klab	1		
13	KYB(株)	1	1	
14	(株)MCOR	1		
15	Ministry of Rural Development	1		
16	NamanganIndustrial Design	1		
17	NECエレクトロニクス(株)	1		
18	NECシステムテクノロジー(株)	1		
19	NECパーソナルプロダクト(株)	1		
20	NTN(株)	1		
21	(株)NTTファシリティーズ	3		
22	Perusahaan Automobil National SDN BHD	1		
23	(株)SANKYO	1		
24	Tien Giang University	1		
25	Toshiba Etretronics Malaysia SDN BHD		1	
26	TOTO(株)	1		
27	TOTOバスクリエイト(株)	1		
28	Toyo memory Technology sdn, bhd		1	
29	UNIVERSITY MALAYSIA PERLIS	1		
30	University of Basel Dept of Chemistry			1
31	University of California, Berkeley	1		1
32	University of Sumatera Utara Medan, Indonesia			1
33	University of the Philippines Manila			1
34	VANTON	1		
35	アイコム(株)	1		
36	(株)アイジーコンサルティング		1	
37	アイシン・エーアイ(株)	1		
38	アイシン・エイ・ダブリュ(株)	2		
39	アイシン化工(株)	1		
40	アイシン精機(株)	1		
41	旭硝子(株)	2		
42	旭有機材工業(株)	1		
43	アツミ電機(株)	1		
44	(株)アルテス	1		
45	アルバック・クライオ(株)		1	
46	アルファソフトウェア(株)	1		
47	(株)イーシープランニング		1	
48	(株)池田設計		1	
49	イシダグループ	1		
50	石塚硝子(株)	1		
51	(株)泉創建エンジニアリング	1		
52	井関農機(株)	1		
53	(株)一条工務店	1		
54	出光興産(株)	2		
55	井上石灰工業(株)	1		
56	イビデン(株)		1	
57	イビデンエンジニアリング(株)	1		
58	ウシオ電機(株)	1		
59	(株)宇宙航空研究開発機構	1		
60	(株)宇宙情報システム	1		
61	(株)エー・エス・イー		1	
62	(株)エスティプレーズ	1		
63	(株)エフ・シー・シー	1		
64	エヌシーイー(株)	1		
65	オーエスジー(株)	1		
66	オークマ(株)		1	
67	(株)オーディオテクニカ		1	
68	(株)大塚製薬工場	1		
69	(株)大林組	2		
70	奥村電気工事(株)	1		
71	オムロン(株)	3		
72	(株)オリバー	1		
73	オリンバス(株)	1		
74	(株)化学物質評価研究機構	1		

No	就職先	M	B	D
75	鹿児島市役所		1	
76	鹿島建設(株)	2		
77	片山設計	1		
78	川崎重工(株)	1		
79	カワサキプラントシステムズ(株)	1		
80	関西電力(株)	1		
81	北日本港湾コンサルタント(株)			1
82	(株)キャタラー	1		
83	キャタピラージャパン(株)	1		
84	キャノン(株)	7		
85	九州電力(株)	1		
86	九州旅客鉄道(株)	1		
87	京セラ(株)	2		
88	(株)協和コンサルタンツ	1		
89	極東石油工業(株)	1		
90	(株)熊谷組	1		
91	クラシエ製薬(株)	1		
92	栗田エンジニアリング(株)	1		
93	栗田工業(株)	1		
94	グローリー(株)	1		
95	黒崎播磨(株)	1		
96	(株)コーエー		1	
97	(株)小糸製作所	1		
98	神戸市役所			1
99	(株)神戸製鋼所	2		
100	(株)コベルコ科研	1		
101	コマツユーティリティ(株)	1		
102	(株)近藤製作所	1		
103	ザインエレクトロニクス(株)	1		
104	三機工業(株)		1	
105	三協マテリアル(株)	1		
106	(株)産業技術総合研究所			2
107	三洋電機(株)	1		
108	(株)シーイーラー	1		
109	シーシーアイ(株)	2		
110	ジェイアール東海コンサルタンツ(株)	1		
111	(株)ジェイアール東日本建築設計事務所	1		
112	四国化成工業(株)	1		
113	清水建設(株)	1		
114	シミック(株)	1		
115	シャープ(株)	1	1	
116	ジャトコ(株)	1		
117	(株)神鋼環境ソリューション	1		
118	新光電気工業(株)	1		
119	新東工業(株)	2		
120	新日鉄ソリューションズ(株)	1		
121	新日本空調(株)	1		
122	新日本製鉄(株)	1		
123	スズキ(株)	1	2	
124	(株)住軽日軽エンジニアリング	1		
125	住友軽金属工業(株)	1		
126	住友重機械エンジニアリングサービス(株)	1		
127	住友電工情報システム(株)	1		
128	住友電装(株)	4	1	
129	住友不動産リフォーム(株)	1		
130	セイコーインスツル(株)	1		
131	セイコーエプソン(株)	4		
132	積水化学工業(株)	2		
133	セコム(株)	1		
134	象印マホービン(株)	1		
135	ソニー(株)	2		
136	ソニーイーエムシーエス(株)	2		
137	ソニーデジタルネットワークアプリケーションズ(株)	1		
138	(株)ソフトウェア・サービス	1		
139	ダイキン工業(株)	2		
140	大研化学工業(株)			1
141	大成建設(株)	1		
142	大日本印刷(株)	3		
143	大日本スクリーン製造(株)	1		
144	ダイハツ工業(株)		2	
145	(株)ダイフク	1		
146	大和ハウス工業(株)	2		
147	高砂熱学工業(株)	1		
148	タカラスタンダード(株)	1		

No	就 職 先	M	B	D
149	㈱竹中工務店			1
150	竹本油脂㈱	1		
151	㈱タダノ	1		
152	タツタ電線㈱	1		
153	多摩川精機㈱	1		
154	タマホーム㈱	1		
155	中央コンサルタンツ㈱	1		
156	㈱中電工		1	
157	中日設計㈱	1		
158	㈱中部総合コンサルタント		1	
159	中部電力㈱	5		
160	千代田化工建設㈱	1		
161	㈱ティエスフォトン			1
162	㈱ティラド		1	
163	㈱テクノクラーツ	1		
164	電源開発㈱	1		
165	㈱デンソー	8		
166	㈱デンソーウェーブ	1		
167	㈱ドーコン	1		
168	㈱トーマーコーポレーション	1		
169	東亜道路工事㈱		1	
170	東海ゴム工業㈱	1		
171	東海漬物㈱	1		
172	東海テレビ放送㈱		1	
173	東海旅客鉄道㈱	4	1	
174	東維興業㈱	1		
175	東京エレクトロンAT㈱		1	
176	東京エレクトロンFE㈱	1		
177	東京地下鉄㈱	1		
178	東京電力㈱	1		
179	㈱東芝	5		
180	東芝キャリア㈱	1		
181	東芝デジタルメディアエンジニアリング㈱	1		
182	東芝テック画像情報システム㈱	1		
183	東芝プラントシステム㈱		1	
184	東ソー㈱	1		
185	㈱トプコン	1		
186	東北電力㈱		1	
187	東洋銅鉄㈱		1	
188	東洋ゴム工業㈱	1		
189	東レ建設㈱		1	
190	鳥取県庁		1	
191	凸版印刷㈱	1		
192	トッパン・フォームズ㈱	1		
193	トビー工業㈱	1		
194	豊田工業高等専門学校			1
195	豊田合成㈱	2		
196	トヨタ自動車㈱	5		
197	㈱豊田自動織機	4		
198	㈱豊田中央研究所	1		
199	トヨタテクニカルディベロップメント㈱	3	2	
200	トヨタ紡織㈱	1		
201	㈱豊橋技術科学大学			5
202	㈱豊橋造船		1	
203	中日本建設コンサルタンツ㈱	1		
204	名古屋市	1	1	
205	西日本旅客鉄道㈱	1	3	
206	ニチアス㈱	1		
207	日栄化工㈱		1	
208	㈱ニチレイフーズ	1		
209	日揮㈱	2		
210	㈱日建設計	3		
211	日産自動車㈱		1	
212	日新製鋼㈱	1		
213	日東電工㈱	1		
214	㈱日東分析センター			1
215	㈱ニデック	2		
216	日本エア・リキード㈱	2		
217	日本ガイシ㈱	3		
218	日本車輛製造㈱		1	
219	日本精工㈱	2		
220	㈱日本製鋼所	1		
221	日本建物㈱	1		
222	日本電気㈱	1		
223	日本電線工業㈱	1		
224	日本特殊陶業㈱	1		
225	㈱日本無線電機サービス社		1	
226	日本練水㈱	1		
227	任天堂㈱	1		
228	㈱花田工務店		1	

No	就 職 先	M	B	D
229	パイオニア㈱	1		
230	パナソニック㈱	2		
231	パナソニックAVCマルチメディアソフト㈱	1		
232	パナソニックコミュニケーションズ㈱	2		
233	パナソニックストレージバッテリー㈱	1		
234	パナホーム㈱	1		
235	㈱バンダイナムコゲームス	1		
236	東日本旅客鉄道㈱	2		
237	㈱美建	1		
238	日立金属㈱	1		
239	日立建機㈱	1		
240	㈱日立コミュニケーションテクノロジー	1		
241	㈱日立情報システムズ	1		
242	㈱日立情報制御ソリューションズ	1		
243	㈱日立製作所	6		1
244	日立ソフトウェアエンジニアリング㈱	2		
245	㈱日立超LSIシステムズ	1		
246	㈱日立メディコ	1		
247	日野自動車㈱	1		
248	㈱ヒミカ	1		
249	㈱ヒューテック	1		
250	福井県庁		1	
251	㈱フジクラ	1		
252	富士化学㈱	1		
253	富士機械製造㈱		1	
254	富士ゼロックス㈱	1		
255	富士通㈱	2		
256	富士通エフ・オー・エム㈱	1		
257	㈱富士通エフサス		1	
258	㈱富士通ディフェンスシステムエンジニアリング	1		
259	ブラザー工業㈱	1		
260	㈱ブリヂストン	1		
261	古河機械金属㈱	1		
262	古河電気工業㈱	1		
263	防衛省		1	
264	ホンザキ電機㈱	1		
265	㈱堀場製作所	1		
266	本田技研工業㈱	3		
267	㈱本田技術研究所	1		
268	本多金属工業㈱	1		
269	前田建設工業㈱	1		
270	松下エコシステムズ㈱	1		
271	丸茂電機㈱		1	
272	ミサワホーム東海㈱	1		
273	三井造船㈱	2	1	
274	㈱三井ハイテック		1	
275	三菱化学エンジニアリング㈱	1		
276	三菱自動車工業㈱	3		
277	㈱三菱地所設計	1		
278	三菱重工業㈱	5		
279	三菱電機㈱	4		1
280	三菱農機㈱	1		
281	ミニチュアファクトリー㈱		1	
282	ミネベア㈱	1		
283	美和ロック㈱	1		
284	武蔵精密工業㈱	1		
285	㈱村田製作所	1		
286	名工建設㈱	1		
287	㈱メイテック	1		
288	㈱モビテック	1		
289	㈱森精機製作所	1		
290	矢崎総業㈱	2		
291	ヤフー㈱	1		
292	山口県庁	1		
293	ヤマザキマザック㈱	1		
294	ヤマハ㈱	1		
295	ヤマハ発動機㈱	3		
296	ヤマハモーターエンジニアリング㈱	1		
297	ユニバーサル造船㈱		1	
298	㈱読売新聞	1		
299	㈱リコー	1		
300	リコーエレメックス㈱	1		
301	隆祥産業㈱	1		
302	菱機工業㈱	1		
303	㈱ルセサステクノロジ	1		
304	㈱ルネサステクノロジ	3		1
305	ローム㈱	2		
306	和興フィルタテクノロジー㈱	1		
	小 計	347	55	23
	合 計		425	



## 同窓会事務局より会員の皆様へ

### ご 挨拶

同窓会会長（1系1期） 今 泉 敏 幸

2006年から始まった開学30周年記念年事業は昨年度で無事終了いたしました。記念事業の募金活動では会員の皆様に大変お世話になりました。先ずは、この場をお借りしまして心よりお礼申し上げます。母校が新たなスタートを切る上でお役に立てたのではと思っています。

さて、平成22年度に技科大の学部・大学院が8課程／8専攻から5課程／5専攻に再編されることはご存知でしょうか？ 技科大のHPに「生まれ変わる技科大」のタイトルで掲載されていますので、興味のある方は是非ご覧下さい。「社会産業構造の変化」や「グローバル時代に対応した人材育成に対する要求」に応えるための再編であり、定員も増員されるとのことです。国立大学の運営費が毎年削減される中での定員増は、技科大に対する期待の高さを表しているのではと思いますし、再編によって母校が益々発展・活躍することを心から願っています。

ところでこの再編によって、同窓会の運営は少なからず影響を受けます。現在の各系の同窓会は引き続き継続させますが、再編後の新たな5つの系についてはまとめて担当する新系担当を設けて運営することになります。運営方法の変更によって会員の皆様にご迷惑をかけないようにしてゆく所存でありますので、今後とも変わらぬご支援・ご協力をお願い致します。

最後に、米国の金融危機に端を発した未曾有の不況は、未だに回復途上にあり2番底も懸念されていますが、平成22年が皆様にとって、明るく希望に満ちた年になることをお祈りして私のご挨拶とさせていただきます。

## ..... 同窓会事業報告および予定（平成20年度～平成21年度） .....

### 1. 会報の発行

同窓会会報第26号を平成20年12月に発行・発送いたしました。印刷部数は10,000部、うち9,200部を会員に発送し、残りは学内関係者への配布と、会報担当、事務局および各系役員の保管、予備としました。平成21年度は10,500部の発行を予定しております。

なお、来年度より実施される学内再編に伴い、平成24年度以降の会報は全てWeb化し、書面による発送を取り止める予定です。詳細は来年度以降の会報にてお知らせいたします。

### 2. 卒業記念パーティーの開催

平成21年3月23日に、豊橋勤労福祉会館（アイプラザ豊橋）にて行われた大学院修了式・学部卒業式後に、同会館体育館にて学友会と共催で卒業記念パーティーを開催いたしました。平成21年度も例年通り開催する予定です。

### 3. 学生活動への援助

本学学生課と共同で学生活動支援（クラブ活動援助）を行いました。詳細は本文をご参照下さい。

### 4. 臨時役員会の開催

平成21年4月1日に、大学D棟8階応接室において臨時役員会を開催し、総会の議事次第案等について話し合いました。詳細は議事録 (<http://www.tut-ob.org/gijiroku.htm>) をご覧下さい。

### 5. 総会の開催

平成21年4月25日に、大学D棟7階会議室において総会を開催し、平成17年度から20年度までの同窓会事業報告および収支決算報告、および平成21年度から24年度までの事業計画および収支予算案が承認されました。

## 6. 役員会の開催

平成21年4月25日に、大学D棟7階会議室において役員会を開催し、昨年度の活動報告ならびに本年度の活動予定等について話し合いました。詳細は議事録(<http://www.tut-ob.org/gijiroku.htm>)をご覧ください。

## 7. 榊学長との懇談

平成21年6月26日に、榊学長(本会名誉顧問)、稲垣副学長・理事、安齋総務課長と、本会の今泉会長、佐藤副会長、感本副会長および事務局担当者との懇談を行い、大学の現状と将来展望などに関して意見交換を行いました。

### 平成21年度同窓会役員(平成21年10月現在)

会 長：今泉 敏幸(中央発條(株))

副 会 長：感本 広文(豊橋技科大機械システム工学系)、佐藤 裕久(豊橋技科大物質工学系)

事 務 局：向井 智彦(豊橋技科大情報工学系)

機械システム工学系(1系 HP, ML)	感本広文, 関下信正
生産システム工学系(2系 会計)	戸高義一, 安部洋平, 今村孝, 山田基宏, 野田義之, 前野智美
電気・電子工学系(3系 会報)	稲田亮史, 村上義信, 河野剛士
情報工学系(4系 事務局)	向井智彦, 山本一公
物質工学系(5系 援助活動)	佐藤裕久, 大北博宣
建設工学系(6系 名簿)	谷 武, 中澤祥二
知識情報工学系(7系 総会・役員会)	藤島悟志, 酒井浩之, 加藤博明, 山田実
エコロジー工学系(8系 総会・役員会)	東海林孝幸, 栗田弘史
名 誉 顧 問	豊橋技術科学大学学長 榊 佳久

\*各系役員へのメールは、admin\_#@tut-ob.org #に系番号を入れて下さい

### 会費納入のお知らせ

本会の会費は、平成4年12月から終身会費制となりました。つきましては、平成5年3月以降の卒業・修了生で入会費(5,000円)または、終身会費(10,000円)が未納の方は、該当する系の振込先へ納入くださいますようお願い申し上げます。

**1系**：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 791348  
加入者名 豊橋技科大第1工学系同窓会

**2系**：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 773671  
加入者名 豊友会

**3系**：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 884432  
加入者名 豊橋技術科学大学3・4系同窓会

**4系**：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 884432  
加入者名 豊橋技術科学大学3・4系同窓会

**5系**：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 791362  
加入者名 物質工学系同窓会

**6系**：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 813330  
加入者名 建設工学同窓会

**7系**：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 884420  
加入者名 豊橋技術科学大学7系同窓会

**8系**：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 884418  
加入者名 豊橋技術科学大学8系同窓会

### 住所変更手続きのお願い

同窓会報を発送する際、「宛先不明」となってこちらへ返送される冊数が年々増加傾向にあります。転居の際や自治体合併などの影響で住所が変更された際には、同窓会事務局（TEL：0532-47-0111）へご一報下さるようお願い申し上げます。また、ホームページ上（<http://www.tut-ob.org/address.htm>）でも、住所変更用フォームを利用して、電子メールで手続きができますので、こちらもご利用下さい。

同窓会事務局では、下記の個人情報管理ポリシーに基づき、同窓会員の皆様の個人情報の安全管理に努めております。同窓会名簿のより一層の充実にご協力をお願いいたします。

### 同窓会 個人情報管理ポリシー

- ・同窓会員の個人情報は、担当の同窓会役員が責任を持って管理します。
- ・個人情報の開示依頼があった場合には、依頼者の身元および依頼理由を確認し、必要とする情報のみを開示します。なお、原則として、同窓生および大学関係者以外には開示しません。

※個人情報の非開示は削除をご希望の方は、同窓会事務局または各系役員までご連絡下さい。

### 同窓会報への広告

掲載広告を募集しております。詳しくは同窓会事務局までお問い合わせ下さい。なお、広告によって発生したトラブルなどにつきましては、同窓会では一切の責任を負いません。

## 大学創立 30 周年記念事業について（御礼）

ご存知の通り、本学は平成18年10月に大学創設30周年を迎えました。既に、同窓会報においてもご報告してきましたように、「豊橋技術科学大学開学30周年記念事業」として記念式典の開催、記念誌発行等の事業を進めてきましたが、このたび平成21年3月を持ちまして本事業を終了することができました。同窓生の皆様、ならびに保護者の方々からは総計1,800万円を超える寄付金をいただきました。頂いた寄付金の一部は、グラウンドの夜間照明灯の設置の他、学生交流会館の開設、学生宿舍全室へのエアコン整備等に使用させていただきました。ご協力いただきました皆様方には、紙面を借りて厚くお礼申し上げます。

約3年間の事業を実施し生じた残金につきましては、豊橋技術科学大学開学30周年記念事業委員会の承認を受け、平成21年4月に国立大学法人豊橋技術科学大学基金を設けさせていただきました。基金については、引き続き「学生への支援」、「学術研究振興活動への支援」、「社会貢献活動への支援」及び「国際交流の推進」等、基本的に記念事業募金の趣旨に沿って活用していく所存でございます。今後とも、本学へのご支援を賜りますようお願い申し上げます（平成20年11月1日以降に募金いただきました皆様のリストは下記をご参照ください）。

平成20年11月1日から平成21年10月31日現在（順不同・敬称略）

### 1系：

白井 利幸, 上島 光浩, 山本 直樹, 西村 基, 山本 義久, 後藤 健

### 2系：

采女 利治, 白木 裕久, 青木 雅司, 福本 聖広, 牛山 孝彦, 久保木 正喜, 丹下 利明

### 3系：

杉浦 優司, 清水 英生, 松尾 一記, 山田 健二, 北村 忠彦, 山本 幸男, 漆畑 正太, 木村 圭作,  
久保 幸, 松岡 勉, 辻 琢人, 小池 和明, 大戸 清市, 川島 覚

### 4系：

庄司 稔雄, 吉田 幹夫, 新田 裕之, 森田 圭, 漆畑 航太, 猪子 剛, 辻村 昌治, 長谷川 和男,  
志水 安起良, 荒川 淳一, 谷口 弘一, 須山 郁夫, 穂波 昭二, 松尾 道夫, 西村 孝則

### 5系：

井浦 貴史, 愛宕 裕司, 服部 貞雄, 澤口 孝弘, 大小田 等, 高井 より子, 藤高 幸司, 平工 大

### 6系：

上田 浩美, 中道 健二, 加藤 慎一, 高橋 良和, 清水 明, 岡田 達也, 高 鑫, 安達 慎也, 高柳 幸典

### 7系：

古長谷 聡, 小沼 士郎, 小林 雄作, 高橋 栄行

### 8系：

中野 勝行

## 開学30周年記念事業募金の決算報告について

## (収入)

事 項	収入額
	円
<b>(1) 30周年事業寄附金</b>	<u>110,160,021</u>
① 教職員 (237件)	14,182,000
② 卒業生等 (579件)	10,026,021
③ 学生保護者 (602件)	8,015,000
④ 名誉教授 (20件)	1,380,000
⑤ 企業等 (172件)	73,320,000
⑥ その他 (149件)	3,237,000
<b>(2) 運用益</b>	<u>568,737</u>
	110,728,758

## (支出)

事 項	収入額
	円
<b>(1) 記念式典関係経費</b>	<u>6,807,906</u>
① 式典会場経費, 祝賀会, 記念品, 案内状印刷及び発送費等	6,605,821
② 学生交流会館セレモニー	202,085
<b>(2) 30年史関係経費</b>	<u>3,167,142</u>
① 30年史印刷代等	3,167,142
<b>(3) 事業関係経費</b>	<u>25,470,646</u>
① 趣意書, パンフ等印刷物作成及び発送費	1,361,336
② 趣意書, パンフ等改訂及び発送費	2,477,145
③ 学生交流会館 (パネル, 什器, LAN等)	4,288,116
④ 照明灯	7,662,900
⑤ 講義棟～事務局渡り廊下デザイン等	1,581,520
⑥ 冠事業の実施 (地域連携事業, 学生課外活動事業等)	4,129,700
⑦ 保護者会支援	144,666
⑧ 名古屋駅前オフィス設置	500,000
⑨ ロボコン支援	857,529
⑩ 広告費 (新聞広告, 車内吊り広告等)	1,741,700
⑪ 事務費 (手数料, 感謝状, 会議経費, 旅費等)	529,438
⑫ 30周年記念事業終了式典	196,596
<b>(4) 豊橋技術科学大学基金</b>	<u>75,283,064</u>
	110,728,758

※30周年記念事業における実施事業概要については、別紙のとおり。

## 豊橋技術科学大学開学30周年記念事業における実施事業概要について

### (1) 開学30周年記念事業寄附金受入状況（運用益を除く）

- ・ 収納件数 1,759件
- ・ 収納金額 110,160,021円

### (2) 産官学連携及び地域連携の推進に関する事業

\* 30周年事業として受け入れた研究費等（上記（1）の30周年事業寄附金を除く。）

種 別	件数	金額（円）	備 考
寄附講座	2	90,000,000	オーエスジー株式会社 3,000万円×5年間（H19～24）
			5信用金庫 1,500万円×3年間（H19～21）
共同研究	256	415,281,344	本学教員との共同研究契約のうち、30周年用として位置付けた共同研究経費
受託研究	35	46,587,596	本学教員との受託研究契約のうち、30周年用として位置付けた受託研究経費
寄附金	247	200,492,235	本学教員に対する寄附金のうち、30周年用として位置付けた寄附金
合計	540	752,361,175	

※当初目標事業総額：6億円

□開学30周年事業寄附金で「約1.1億円（110,160,021円）」（上記（1）のとおり）、冠研究事業等で「7.5億円（752,361,175円）」（上表のとおり）、合計で「約8.6億円（862,521,196円）」となり、事業総額としては、目標を達成

#### ○寄附講座

- ・ オーエスジー株式会社からの寄附金による「オーエスジーナノマイクロ加工学講座」を設置（平成19年度）
- ・ 5信用金庫（豊橋・豊川・蒲郡・浜松・岡崎）からの寄附金による、農学と工学の融合分野や技術創生を目的とした「しんきん食農技術科学講座」を設置

#### ○連携研究室

- ・ 中部ガス株式会社及びガステックサービス株式会社と本学滝川浩史教授（電気・電子工学系）との間で締結
- ・ 契約期間は平成19～22年度までの3年間

#### ○共同研究・受託研究

- ・ 賛同いただいた企業等について、「30周年記念事業」の冠を付けた共同研究・受託研究を実施

#### ○産学連携推進本部の設置

- ・ 平成20年4月1日設置

#### ○名古屋駅前連携拠点の設置

- ・ 平成20年7月1日開所
- ・ 中部地域に集積するイノベーションを担う関係機関が相互の連携を拡大・深化させ、広域的かつ強固なネットワークの形成を図るための連携拠点

#### ○先端農業・バイオリサーチセンターの設置

- ・ 大学の果たすべき使命のひとつとして地域貢献が求められるなか、本学の地域農業、食農産業に果たすべき役割は極めて重要であり、また農工融合分野に発展的に取り組む場として平成18年度に設置
- ・ 要素技術部門と農環境システム部門に加えて、寄附講座である「しんきん食農技術科学講座」が統括研究を行っている

- 地元自治体等との連携
  - ・ 市民大学トラム等, 講習会を共同開催
- その他
  - ・ 大学案内板の設置 (大学正門前交差点)

### (3) 学生支援の充実に関する事業

- 学生交流会館の設置
  - ・ 学生の交流スペースの整備することによる学生生活環境の向上を目的として設置
  - ・ 平成19年11月20日 完成記念式典開催
  - ・ 完成記念式典には, 本学の創立に奔走いただいた当時の豊橋青年会議所のメンバー等も出席
- スポーツ施設の充実
  - ・ 陸上競技場に照明灯を設置 (平成20年1月28日完成式)
  - ・ トレーニングジムの開設 (平成20年10月14日開所式)
- 大学院生海外実務訓練への支援
- 博士課程学生への支援
  - ・ 「大学特別支援」: 年額100万円を上限 (授業料を含む) として最短修業年限まで支援
  - ・ 「教員特別支援」: 年額150万円を上限 (授業料を含む) として単年度支援
- 新学生宿舎の整備
  - ・ 借入金による6階建, 約2,000㎡, 主に女子学生用に使用予定
  - ・ 30周年寄附金により, 居室に設置する机, ベッド等の備品等を措置
- ロボコン同好会への支援
  - ・ NHK大学ロボコン2008において, 本学ロボコン同好会が優勝し, 日本代表として「ABUアジア・太平洋ロボットコンテスト」に出場することになったためインド渡航費用等を支援
- 保護者会支援
- 留学生支援
  - ・ 「オーエスジー留学生奨学金」
    - \* 平成19年度3名, 平成20年度4名の留学生に奨学金 (月額80,000円) を給付

### (4) 「冠」事業 (共同研究, 受託研究, 研究目的の寄附金等を除く。)

- 地域連携等事業
  - 平成18年度: 29件 平成19年度: 15件 平成20年度: 1件
- 学生課外活動事業
  - 平成18年度: 10件 平成19年度: 6件 平成20年度: 5件

### (5) 30年史の編集と発行

- ・ 平成18年10月1日発行

### (6) 開学30周年記念講演会及び記念式典・祝賀会

- ・ 日時: 平成18年10月6日
- ・ 場所: ホテルアソシア豊橋
- ・ 出席者数: 約390名

### (7) その他

- ・ 講義棟一事務局渡り廊下デザイン等

# ＊豊橋技術科学大学同窓会会則＊

## 第1章 総則

- 第1条 本会は、豊橋技術科学大学同窓会と称する。  
 第2条 本会は、本部を豊橋技術科学大学内に置く。  
 第3条 本会は、会員相互の親睦を図り、豊橋技術科学大学の発展に寄与することを目的とする。

## 第2章 事業

- 第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。  
 (1) 会員名簿の発行  
 (2) 会報の発行  
 (3) 総会の開催  
 (4) その他、本会の目的を達成するために必要とされる事業

## 第3章 会員

- 第5条 本会は、次の会員をもって組織する。  
 (1) 正会員 豊橋技術科学大学にかつて学籍を置いた者  
 (2) 準会員 豊橋技術科学大学に現在学籍を置いている者  
 (3) 特別会員 豊橋技術科学大学の現職及び退職教官  
 (4) 賛助会員 本会の目的を賛助する個人または法人で、理事会において推薦された者  
 2 本会会員は、その所在を変更の都度、本会に通知する義務を負う。

## 第4章 組織

- 第6条 本会に次の役員を置く。  
 (1) 名誉顧問（豊橋技術科学大学学長）  
 (2) 会長 1名  
 (3) 副会長 2名（庶務担当）  
 (4) 理事 原則として各系2名  
 (5) 顧問 若干名  
 第7条 本会の役員の出選は、次の各号に定めるところにより行う。  
 (1) 名誉顧問は、現豊橋技術科学大学学長とする。  
 (2) 会長、副会長は、正会員のうちから理事会の推薦を得て会員の承認を得る。  
 (3) 理事は、正会員のうちから理事会が推薦した者及び会長の委嘱による者とする。  
 (4) 顧問は、役員経験者もしくは特別会員のうち理事会において推薦された者とする。

第8条 本会役員は任期は2年とする。但し留任は妨げないものとする。

第9条 本会の議決機関として理事会及び総会を開催する。

## 第5章 役員

- 第10条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。  
 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。  
 3 理事は、理事会において意見を述べ、事務局及び本会運営の責務を負う。  
 4 名誉顧問および顧問は、本会の運営について助言を与え、会長の要請に応じて本会の会務に出席し意見を述べることができる。

第11条 理事は、本会の次の具体的な業務の実行を担当する。

- (1) 庶務
- (2) 会計
- (3) 会報の編集、発行
- (4) 理事会、総会など重要な会務の開催及び召集
- (5) 会員名簿の管理

(6) 監査

(7) その他、本会の事業全般

2 各業務責任者は理事が担当し、業務遂行する。

## 第6章 理事会

- 第12条 理事会は、第6条に定められた役員により構成される。  
 第13条 理事会は、会長の要請により庶務担当が開催の責務を負う。  
 第14条 理事会は次の事項を審議する。  
 (1) 本会の事業の運営に関する事項  
 (2) 事業報告及び決算報告  
 (3) 事業計画案及び予算案  
 (4) 賛助会員の推薦に関する事項  
 (5) その他、本会の運営に関する議案  
 第15条 理事会の議決は、理事会に出席している役員の過半数の賛成を必要とし、可否が同数のときは、議長が決める。理事会の議長は会長が務める。理事会に欠席した役員の議決は、出席している役員の総意に委ねたものとみなす。

## 第7章 総会

- 第16条 総会は、定期総会と臨時総会とし、会長が召集する。  
 2 定期総会は、4年に1回開催することを原則とする。  
 3 臨時総会は、会長が、その必要を認めた時、開催する。  
 4 会長は、総会を召集するとき、事前に文書で正会員に通知しなければならない。  
 第17条 総会は次の事項を審議し、承認または議決する。  
 (1) 会則の制定・改廃  
 (2) 事業計画及び収支予算案  
 (3) 事業報告及び収支決算案  
 (4) その他、本会の運営に関し重要な事項  
 第18条 総会の議事は、出席正会員の過半数で決め、可否が同数のときは会長が決める。議長は、会長が務める。

## 第8章 会計

- 第19条 本会の運営に必要な経費は、会費、寄付金、その他の収入をもってこれに充てる。但し、必要に応じ、理事会での議決、総会での承認を得て臨時費を徴収することができる。  
 第20条 本会の正会費は、次のとおりとする。  
 (1) 入会金 5,000円  
 (2) 終身会費 10,000円  
 2 会費の納入は入学時に一括して行う。在学中は、準会員としての資格を得る。  
 第21条 既納の会費は原則として返納しない。但し、準会員が、卒業もしくは修了以前に学籍を離れる場合に限り、半年以内に請求があれば、返納する。その場合、会員資格を失う。  
 第22条 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月末日に終る。

## 第9章 雑則

- 第23条 本会会則の改訂は、理事会の議決を経て総会の承認を必要とする。  
 第24条 本会会則施行に必要な事項は、理事会の議決を経て会長が定める。

## 付則

- 1 本会則は、平成4年12月19日の総会において会則改訂の承認を得て、平成4年12月20日から施行する。
- 2 平成4年度及び5年度在学生は、第20条における会費の納入を卒業、修了時に一括して納入する。



## 同窓会平成 20 年度収支報告および平成 21 年度予算案

項 目	平成20年度予算案	平成20年度決算	平成21年度予算案
<b>■収入の部</b>			
前年度繰越金	5,801,776	5,801,776	5,861,625
入 会 金	2,000,000	1,795,000	2,000,000
会 費	4,000,000	3,590,000	4,000,000
預 金 利 息	10,000	19,075	15,000
会 報 広 告 費	80,000	80,000	80,000
小 計	6,090,000	5,484,075	6,095,000
収 入 合 計	11,891,776	11,285,851	11,956,625
<b>■支出の部</b>			
会 報 経 費	870,000	870,000	870,000
役 員 会 経 費	65,000	67,480	65,000
庶 務 経 費	50,000	93,616	50,000
卒業記念パーティ援助金	250,000	250,000	250,000
学 生 活 動 援 助 金	500,000	500,000	500,000
Web 関 連 経 費	53,130	53,130	53,130
各系への会費配分金	4,000,000	3,590,000	— <sup>※1</sup>
小 計	5,788,130	5,424,226	1,788,130
次年度繰越金	6,103,646	5,861,625	10,168,495
支 出 合 計	11,891,776	11,285,851	11,956,625

※1 2009年度総会にて、再編対応事項として、2009年度以降の会費の全体会計での一括管理が、承認されたため。

## 学生活動への援助報告

現在同窓会では、同窓会活動の活性化・効率化を目的に大学との連携強化を進めております。その一環として、2006年度より大学運営委員会の一つである学生生活委員会と共同で「学生生活援助」を行っております。同窓会では会員の皆様のご理解、ご協力を賜りながら、今後も学生活動に対して積極的な援助を続けたいと思っております。

### おちゃのかい

エコロジー工学課程 3年 西山 渉

この度は、おちゃのかいに同窓会よりクラブ援助金を頂き、誠に有難うございます。おちゃのかい一同、心よりお礼申し上げます。

我々おちゃのかいは、地域のお茶の先生から他大学の学生まで色々な方々を招く、「ふつうの茶会」という茶会を三の丸会館にて行っています。今年は「一期一会」をテーマにお茶会を開き、今回の援助金は、そのお茶会で使うお道具の購入に充てさせて頂きました。お茶会では、お茶や和菓子とともに、お道具を見ることも大きな楽しみのひとつですので、新しいお道具を用意することができてほっとしました。今年は、例年をはるかに上回る150余名ものお客様にお越しいただき、大変うれしく思います。この気持ちを忘れずに、来年も皆様に満足頂けるようなお茶会が開けるよう、努力して参ります。

今年度は、豊橋や蒲郡の地域のイベントに参加する機会に恵まれ、多くの人と出会いとても勉強になりました。今後もできる限りこういったイベントに参加していき、人との出会いを大切にしていきたいと思っております。



### 空手道部

機械システム工学課程 3年 林 真大

この度は私たち空手道部に援助していただき、誠にありがとうございます。援助金は講師への謝金として使わせていただきます。講師には空手道部が創立して以来、長きに渡って豊橋技科大、空手道部の指導をしていただいております。空手道部を支えていただいております。

私たちは毎週月、木、日曜日に稽古をしており、日曜日に講師に来ていただいて、指導を受けています。稽古

では初心者が多いということと、大学を卒業してからも空手を続けてほしいということから、基礎稽古を重点的に行っています。稽古は決して楽なものではありませんが、心身共に強くなるために部員一同、精進しています。

現在の部員数は7名と決して多くはありませんが、今後も皆様から支援していただいているということをお忘れずに、精一杯活動していきたいと思っております。



### 弓道部

情報工学課程 4年 河野 孝佳

この度は弓道部に援助をしていただき、誠にありがとうございます。部員を代表してお礼申し上げます。今回の支援金は弓の購入に使わせていただきました。弓道部には毎年多数の入部者がいるのですが、それに伴いどうしても練習で使う弓が不足してしまいます。しかし、弓はとても高価なため、部費で数を揃えることはとても難しいということもあり、今回の支援は非常に助かっております。

本年度は東国体において、男子の部4名、女子の部1名が予選を突破し決勝に残るなど、昨年よりもよい成績を残すことができました。また、昨年度より加盟している豊橋弓道連盟主催の市民大会でも市民スポーツ大会で一般男子・女子の部ともに2位入賞、敬老射会で優勝と、こちらもよい結果を残すことができました。

今後も現在の結果に満足することなく、よりよい結果を残せるよう精進して参ります。今回のご支援誠にありがとうございました。



## 軽音楽部

情報工学専攻 修士1年 森 崇彰

この度は軽音楽部を支援していただき誠にありがとうございます。部員一同心よりお礼申し上げます。我が軽音楽部は1年間の中で積極的にライブ活動を行っています。特に今年は夏にサマーカレッジチャレンジショップというイベントに参加して、駅前でライブを行い豊橋市の活性化に貢献しました。また技科大祭ではコモンズIにて愛知教育大学さんや豊橋創造大学さん等の他大学や、豊橋で活動しているインディーズバンドをお呼びしてライブを行い、例年よりも多くのお客様に聞いてもらうことに成功しました。

このような活動ができたのも支援していただいたからだと思います。今後もこれ以上に活発に活動していこうと思いますので、ご支援のほどよろしく申し上げます。

た車両が評価されたこともあり、総合成績11位、ならびに自動車工業会会長賞受賞、加速性能1位、という好成績を残すことができました。これは、チームの努力はもちろんのこと、皆様からのご支援の賜物であります。誠にありがとうございます。たゆまぬ努力を続けていきますので、今後ともよろしく願い申し上げます。



## サッカー部

建設工学課程 3年 鈴木 駿介

この度はサッカー部に援助していただきありがとうございます。私たちサッカー部は、週に一度の全体練習およびリーグ戦や各大会に参加しサッカーに励んでいます。

学生という身は忙しいということもあり平日から積極的に活動はできていません。しかし今年はやる気のある新生が入学的にボールを蹴りに行く姿も見られ、例年より良い空気も感じられます。

一方試合に関しては、社会人リーグの4部で戦っています。昨年5部から昇格したばかりで、この勢いでさらにもう一つ昇格するべく頑張っているところです。

最近ではチームでミーティングをするなどサッカー部員としての個々の意識の向上も図ろうとしています。チーム力を高め大会で結果を残せる部活になれるようこれからも尽力していきたいと思っています。

## JAZZ研究会

知識情報工学課程 4年 丹野 航

この度はJAZZ研究会に支援していただき誠にありがとうございます。今年のJAZZ研究会は新入生が18人も入部し、活動がより活発になった反面、楽器や機材が不足しがちになってしまいましたが、皆様の援助のおかげで無理なく活動することができるようになりました。

JAZZ研究会では学内や学外でのライブや技科大祭でのJAZZ喫茶の運営、そしてJAZZ研究会特有のセッションを行うという活動があります。学内ライブは主に新入生歓迎会やオープンキャンパス、学外ライブは豊橋の駅前で行いました。また、これから東海地方国立大学文化祭での演奏も控えています。技科大祭でのJAZZ喫茶では今年もたくさんの方に来ていただき演奏を聴いていただくことができました。また、ケーキやコーヒーも売り切れてしまうほど好評でした。この他にも愛知大学とのセッションやサークル内でのセッションを活発に行い部員の演奏技術の向上につながっています。

このような活動をこれからも続けていき、より活発なサークルとしたいと思っておりますので応援していただければ幸いです。

## 自動車研究部

生産システム工学専攻 修士1年 戎野 由展

この度はご支援をいただき、感謝いたします。自動車研究部部員一同、心よりお礼申し上げます。なお、ご支援いただいた物品は以下になります。車両整備の工具としてトルクレンチ、トルクドライバ、古くなったドライバー装備の交換としてレーシングシューズ2足、レーシンググローブ2組、CFRPのリサイクル試験の装置としてオイルバスをご支援いただきました。

私たち自動車研究部は、全日本学生フォーミュラ大会に参戦するために日々活動しております。全日本学生フォーミュラ大会では、学生が企画・設計・製作したフォーミュラスタイルの小型レーシングカーで競技が行われ、車両の走行性能だけでなく、車両コンセプト・設計・コストの審査など、ものづくりの総合力が評価されます。

今年開催された第7回大会では、豊橋技科大自動車研究部ブランドであるカーボンモノコックシャシを採用し



## 吹奏楽団

情報工学課程 4年 嶋田 晃太

この度は同窓会より援助を頂き、誠にありがとうございました。団員一同、心よりお礼申し上げます。

今年度、吹奏楽団は13名の新入団員を迎え、総勢55名での活動となりました。「地域に根ざす団」を目標に掲げて活動してきた結果、毎年開催しております定期演奏会、他大学との合同演奏会、本学の入学式、卒業式での祝賀演奏、技科大祭での演奏、それに加え、地域の皆様からの依頼演奏などたくさん演奏の機会を頂けるようになりました。団員の増加により楽器が不足し、他団体より借りなければならぬという事態になってしまいました。そのような状況で同窓会より援助を頂き、ユーフォニアム1本の購入をさせていただくことになり、大変助かりました。今後も、地域や大学のイベントに貢献できるよう、団員一同頑張っていきたいと思っております。



## 総合文化部

建設工学課程 4年 前池 一輝

この度は、総合文化部に援助して頂き誠にありがとうございました。部員一同感謝しております。援助金は、演劇部門では照明器具に、写真部門ではカメラのレンズなどの購入に使わせていただきました。

総合文化部は今年（4月集計）で部員84名が活動しております。この84名は上記にもあるような演劇部門・写真部門の他に、奇術部門・合唱部門・ジャグリング部門といった計10からなる様々な部門に所属し、日々練習に励んでいます。

本年度、私たちは三つの目標を掲げました。1.学内に広めよう。2.学外に広めよう。3.皆で広めよう。です。もともと各部門では方々で活動を行っていましたが、これは総合文化部全体の活動目標として取り組んだものです。まず目標1では、5月25～27日の3日間を総合文化部デイズ（総文デイズ）と称してお昼休みを利用し、学内で各部門の活動発表を行いました。これは反響が大変良く、2名の入部希望者まで現れました。9月14～16日にも技科大祭の宣伝を兼ねて行い、こちらも大反響のまま終わることができました。84人が共に活動すること

で、他部門に所属している部員同士の親睦も深まるという思った以上のいい結果ももたらしてくれました。目標2では、先日行われた技科大祭にて、ジャグリング部門の演技を見ていた保育園の関係者が、「園児に見せてあげて欲しい。」との申し出があり、思わぬ所から目標達成ができそうです。目標3はまだ手をつけられていませんが、部員たちのモチベーションも上がってきているので近いうち必ず実現すると信じています。

今後も、地域や大学に貢献できるよう積極的な活動を考えていますので、支援のほどよろしくお祈りします。

## ソフトテニス部

機械システム工学課程 4年 佐藤 力

この度は、ソフトテニス部に援助していただき、誠にありがとうございます。援助金はボールの購入に当てさせていただきます。この援助により、常に状態の良いボールで練習することが出来ます。

現在、ソフトテニス部は週3日の全体練習を行っています。基礎練習をメインに行っており、部活の終わりには練習試合をすることで、練習成果の確認をしています。

今年度の東国体では他大学と接戦を繰り広げましたが、後一歩及ばず6大学中6位という残念な結果に終わりました。このことを反省にして、夏の合宿では2日間の集中練習を行い、部員の技術とメンタルの向上を図りました。

一部の部員は自ら豊橋のクラブチームに赴き、自分より高いレベルの人の中に混じって練習しています。そこで学んだことを部活の際にコメントしてくれるので練習の参考になります。

皆様から支援をしていただいたということを中心に留めて、今後更なる活躍が出来るように部員一堂精一杯活動していきます。

## 虹のとびら

電気・電子工学専攻 修士1年 辻井 謙一

この度は、課外活動活性化費により虹のとびら主催、表浜ブルーウォークを支援していただきありがとうございました。

表浜ブルーウォークは表浜の海岸清掃を通じて、世間にゴミ問題を訴える目的で始められ、今年度で活動3年目となります。本年度は、参加者述べおよそ600人と、昨年度以上の参加者を確保することができました上、多数のメディアに紹介されるという結果も残すことができました。

本年度は途中で、台風や地震など、数々のハプニングにも見舞われましたが、大きな怪我などをすることもなく、無事終わることができました。最終的に拾ったゴミの合計量は、45ℓゴミ袋にして1145袋、重量は約3tという結果となりました。今回、援助をいただけたことで、ゴミの輸送用トラックのレンタル、救急用品の購入、熱

中症予防用のドリンクなど、多数の物品として使わせていただくことができました。本当にありがとうございます。スタッフ一同感謝しております。本当にありがとうございました。

最後になりましたが、わが虹のとびらに支援をいただきまして誠にありがとうございます。スタッフ共々これからも精進していく所存ですので、これからもよろしくをお願いします。



## 豊橋日曜学校

知識情報工学課程 4年 田邊 圭一

この度は、豊橋日曜学校に援助して頂き、誠にありがとうございます。部員一同心よりお礼申し上げます。援助金は、活動で必要となるスピーカーなどの物品に当てさせていただきました。

豊橋日曜学校は豊橋市とその周辺に住む知的障害を持った子ども達と遊ぶボランティアサークルで、月に一度、様々なレクリエーション活動を行っています。事前に学生の中から選出された「大先生」が1日の活動内容を考え、当日の司会進行を行います。今までには、海水浴、運動会、クリスマス会といった活動をしてきました。活動日は月に一度ですが、それまでには施設の下見、当日の動き方や安全面についての話し合い、レクリエーションで使う物品の作成など、大先生を中心に長い時間をかけて準備を行っています。

これからも、支援して頂いたことを忘れず、精一杯活動していきたいと思えます。



## バスケットボール部

物質工学課程 3年 鈴木 佑紀

この度は、バスケットボール部に支援していただきありがとうございます。部員一同、心よりお礼申し上げます。援助金は、練習用、試合用のバスケットボールを購入する形で使用させていただきました。

今年度に入り、以前よりも部員数が増加し部員各自のモチベーションも向上しており、練習に非常に熱が入っています。特に、今年度の東海地区国立大学体育大会では見事準優勝することができました。週三回という限られた時間の中で、部員全員が一致団結し勝ち得た結果だと思えます。これも、援助してくださった皆様方のおかげだと思っております。

また、東三河地区の社会人リーグなどに参加し、地域とも触れ合う機会が多くなってきています。地域活性はもちろんのこと、各自のモチベーション維持にもなっているため、大変有意義な活動をさせて頂いていると考えております。ここ数年で非常に高い盛り上がりを見せるバスケットボール部は、日々鍛錬に励み活動していく所存ですので、是非これからもよろしくお願い致します。

## 武道部

建設工学課程 4年 池尾 怜

この度は武道部に援助して頂きまして、誠にありがとうございます。武道部一同、心より感謝致します。

武道部は現在20名で毎週水曜日と土曜日に剛柔流空手道と古武道の稽古に励んでおります。武道部は毎年、演武会という稽古の成果を地域の方々に披露させて頂く催し物を開催しております。今年も無事第5回演武会を成功させることができたのも、皆様のご支援によるものと深謝致します。今回の演武会では「全身全霊」をコンセプトに、部員一人一人が全身全霊で演武に臨み、形や約束組手、武器を使った古武道を披露し、今回は新たな試みとして、本学吹奏楽団とのコラボレーションを行い、音楽と武道の融合をお楽しみ頂きました。

この度ご援助して頂きました物品は技術の研究と向上のために使用させて頂き、より充実した稽古の中で努力を重ねて参ります。さらにその成果を来年予定している第6回演武会で披露させて頂きます。

これからも武道部は日々の稽古を全身全霊で行い、地域や大学に貢献できるよう精進して参ります。今後ともご支援のほど、宜しくお願い致します。

## ラグビー部

電気・電子工学課程 4年 松藤 陽一郎

この度は課外活動活性化経費の援助をいただき誠にありがとうございます。私達ラグビー部は修士3名、学部26名で活動しています。現在東海学生ラグビーフットボール連盟主催の大学リーグで3部リーグに所属してお

り、リーグ昇格を目指して日々練習しています。今年は創部30周年ということで、春にたくさんのOB・OGの方とお会いする機会があり、そこで過去の部活の話やアドバイスをいただいたりしてとてもいい経験ができました。

今回援助いただいた課外活動活性化経費ですが、部活動環境が充実しとても助かっています。ラグビーでは体を激しく当てる場面が起こるので、練習でもタックル練習など体を当てる練習が必要になります。そういった練習の中で怪我を防止するためにコンタクトスーツを申請させていただきました。またラグビーではルールの特性上ボールを手と足を使ってプレーするのですが、屋外で使用するのですり減りが早く、次第に手では扱いづらくなります。公式試合では公平を期するために両チームから新球を出すようになっており、新しいボールが必要なため申請させていただきました。他にも氷嚢や、練習に使用するマーカーコーン、ライン引きのためのメジャーを援助いただき、ただただ感謝するばかりです。

最後になりましたが、大学生活での部活動というのは学生最後の部活動です。リーグ昇格という部全体での目標を達成していくことで、部員一人ひとりが成長していきたいと思っています。これからも精一杯精進して参りますので、ご協力の程よろしくお願ひします。



## ロボコン同好会

生産システム工学課程 3年 紅林 拓也

この度は、我々ロボコン同好会に課外活動活性化経費援助を頂き、誠にありがとうございます。ロボコン同好会部員一同、心よりお礼申し上げます。

我々ロボコン同好会は毎年、主に「NHK 大学ロボットコンテスト」、「ABU アジア・太平洋ロボットコンテスト」に参加し、優勝することを目標とした活動を行っています。

2008年、2009年と我々は「NHK 大学ロボットコンテスト」に2年連続、通算6度目の優勝を果たし、日本代表として「ABU アジア・太平洋ロボットコンテスト」に参加しました。今年は去年同様、第3位の成績を取め、敢闘賞、アイデア賞を受賞しました。

援助経費は、卓上フライス盤、卓上旋盤の購入に充てさせて頂きました。お陰様で「ABU アジア・太平洋ロボットコンテスト」直前まで部品製作作業ができ、会場であった不慮のマシントラブルにも対処することができました。

現在は、2010年6月に開催される「NHK 大学ロボ

ットコンテスト 2010」への出場資格を得るため、12月上旬にある一次選考へむけて、学部生24人、修士17人の計41人で活動しています。

過去「NHK 大学ロボットコンテスト」で3連覇を成し遂げた学校はありません。ディフェンディングチャンピオンとしてのプレッシャーはありますが、3連覇を果たし、例年以上の良い結果を報告できるよう、ロボコン同好会部員一同、精一杯尽力して行きます。今後とも応援のほど、宜しくお願ひ致します。ロボコン同好会の活躍にご期待下さい。



## 技科大祭実行委員会

知識情報工学課程 2年 吉川 悠

今年は不況の煽りもあってか、技科大祭のパンフレットの広告協力金が例年に比べて集まらず、大変苦しい状況にありました。そこで同窓会にこの件に関して相談した結果、技科大祭の資金を応援して下さることになり、ご存知の通り無事に第32回技科大祭を開催することができました。この場を借りてお礼を申し上げます。

同窓会にご支援いただいた10万円は、ステージレンタル代金の一部として使わせていただきました。技科大祭のステージは工事用の足場によって作られています。その足場を、技科大祭実行委員が心をこめて組み立て、メインステージとして技科大祭を支えています。本学の音楽系サークルによる演奏や、文化系サークルによるパフォーマンス、毎年好評をいただいている芸人公演やビンゴ大会等はこのステージ上で行われ、今年も技科大祭の中心として活躍しました。ステージとともに技科大祭を支えてくださった同窓会の皆様に、心から感謝の意を申し上げます。





大学航空写真



A棟に新設された渡り廊下